

平成30年度  
東大和市・東村山市

地域の戦争・平和学習  
及び  
広島派遣事業  
報告書

平成30年12月

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会





# 東大和市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 委員長

東大和市長 尾崎 保夫



戦後 73 年が過ぎ、戦争を語り継ぐことが大変難しくなっております。戦争の記憶を風化させないために、今こそ、次代を担う若い方々に戦争を語り継いでいく必要があります。戦争の悲惨さ、平和の大切さを次の世代へ伝え、平和な社会を未来につないでいくことが、今を生きる私たちの責務であります。

こうした中、東大和市と東村山市が連携し、4 回目になります「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を、東京都市長会の多摩・島しょ広域連携活動助成金（子ども体験塾）の交付を受け実施しました。昨年までは中学生だけを対象としていましたが、今年は小学 5・6 年生まで拡げ、2 市の小学生と中学生の合計 20 人が参加しました。

参加した小・中学生たちは、初めに、東大和市や東村山市の施設等を巡り、自分たちが住んでいる地域の戦争の歴史について学習しました。東大和市では、戦災建造物である旧日立航空機株式会社の変電所を見学しました。この変電所は、昭和 13 年に建設され、昭和 20 年の空襲による無数の機銃掃射や爆撃の痕を当時のまま残しており、今も戦争の恐ろしさを訴え続けています。実際に変電所を見た小・中学生たちは、自分たちの住んでいる身近な地域が戦争の脅威にさらされていたことに驚き、戦争や平和について多くのことを感じたことと思います。

その後、広島市を訪問し、世界で初めて核兵器が使われ、原子爆弾により一瞬にして破壊された街の惨状の記録と記憶に実際に触れてきました。小・中学生たちは、被爆者やその家族のかたから、被爆当時の話を聞きました。また、平和記念式典に参列するとともに、平和への祈りを込めて、と

うろうろ流しを行いました。そして、戦後、多くの人たちの努力により広島市が復興し、現在の姿になったことを知りました。

小・中学生たちは、この事業を通じ、戦争がどのようなものかを実感し、悲惨な戦争を二度と起こしてはならないという想いを強く心に刻んだことでしょうか。また、現在の平和な世の中が決して当たり前のものでなく、多くの先人たちの犠牲や努力の上で築かれたものであることを学び、その平和の大切さを次の世代に伝えていくことが、いかに重要であるかを学習したと思います。実際に、派遣後に実施しました報告会におきましても、小・中学生たちの平和に対する熱い想いを聞くことができ、この事業が大変意義深いものであったと感じております。

これから、小・中学生の皆さんには、この事業で学んだことをさらに次の世代に伝えていただきたいと思います。次代を担う若い方々によって、戦争の悲惨さ、平和の大切さが語り継がれ、恒久平和が実現することを願っております。

東大和市は、平成 2 年 10 月 1 日、核兵器の廃絶と恒久平和を願い、「東大和市平和都市宣言」を行い、平和を愛する人々と手を携え、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することを誓いました。これからも、世界で唯一の核被爆国の国民として、様々な取組みを通じて、戦争のない平和な社会を未来に引き継いでまいります。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及びその保護者の皆様、また、事業実施に向けてご協力いただきました多くの皆様から心から御礼を申し上げます。

平成 30 年 12 月

# 東村山市長あいさつ

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会 副委員長

東村山市長 **渡部 尚**



一発の原子爆弾が広島と長崎の街を一瞬にして破壊し、多くの尊い命を奪った、人類史上最初の原子爆弾投下から73年が過ぎました。辛うじて生き延びた人々も、目に見えない放射線の障害に苦しみ、心身に負った深い傷は、今なお、消えることなく人々を苦しめています。

昨今、世界的に核兵器根絶に向けた気運が高まりつつあるとはいえ、まだまだ道半ばであり、世界で唯一、核兵器による惨禍を体験した私たちは、核兵器の恐ろしさと戦争の悲惨さ、さらに平和の大切さを決して忘れることなく、世界中に伝えていかななくてはなりません。

東村山市は、昭和39年に「平和都市宣言」を、昭和62年には「核兵器廃絶平和都市宣言」を行いました。以来、核兵器や戦争のない平和な社会の実現に向けて、「核兵器廃絶と平和展」「平和のつどい」などを毎年開催しています。

恒久平和を願う取り組みの一つとして、平成27年度より東大和市と合同で市内中学生を対象に「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」を実施してきました。今年4年目を迎えた本事業では、新たに小学5・6年生からの参加者を募り、両市あわせて20人の小・中学生がこの事業に参加いたしました。

小・中学生たちは、自分たちが暮らす身近な地域の戦争について、東村山ふるさと歴史館や東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所などの見

学を通じ、しっかり学んだ上で広島を訪問しています。

そして、広島では平和記念式典に参列し、平和を祈念するとともに、爆心地や被爆した袋町小学校平和資料館、広島城などを見学し、原爆の恐ろしさを目の当たりにしました。特に、被爆者のかたから直接聴いた体験談や、爆心地から一番近い本川小学校平和資料館での被爆者の身内のかたが語る、家族を襲った原爆がもたらした悲劇は、参加した小・中学生たちの心に大きく響いたことでしょう。

戦争を直接体験した方々は、歳を重ねて高齢となり、直接戦争の悲惨さ、平和の大切さを伺う機会が少なくなりつつあります。私たちは、次世代を担う子どもたちに、二度と戦争を起こしてはならないことを伝え、平和を守っていく、その先頭に立っていかなくてはなりません。

この事業を通じ、参加した小・中学生たちがどのように感じ受け止めたのか、ぜひこの報告書をご覧ください、一緒に平和について考える機会にいただければ幸いです。

結びに、本事業にご参加いただきました小・中学生及び保護者の皆様、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

平成30年12月

## 目 次

1	実施概要・日程 .....	4
2	参加者名簿 .....	5
3	地域の戦争・平和学習会 .....	6
4	広島派遣 .....	8
5	報告会 .....	12
6	参加者感想文	
	Aグループ .....	16
	Bグループ .....	22
	Cグループ .....	29
7	参加者アンケート .....	36
8	資料	
	東大和市平和都市宣言 .....	40
	東村山市核兵器廃絶平和都市宣言 .....	41

# 1

## 実施概要・日程

### 事業の趣旨・目的

東大和市・東村山市の小・中学生が、自分たちが住んでいる身近な地域でさえも戦争の脅威にさらされていたことを学習するとともに、世界で初めて核兵器が使われた広島市の惨状の記録と記憶を実際に見聞することで、戦争の悲惨さや命の尊さについて考え、平和意識の高揚を図ります。

### 実施経過

7月5日(木) 東大和市	事業全体の事前説明会
7月6日(金) 東村山市	
7月27日(金)	地域の戦争・平和学習会(東大和市・東村山市)
8月5日(日)～7日(火) 2泊3日	広島派遣(広島市)
8月10日(金)	報告会準備(東村山市役所)
8月18日(土)	報告会(東大和市「平和市民のつどい」)
8月26日(日)	報告会(東村山市「平和のつどい」)

### 広島派遣日程

日次	月日(曜)	行程	宿泊地
1	8/5(日)	<p>●集合時間 東大和市駅 8時15分 東村山駅 8時20分</p> <p>東大和市駅(西武線) 10:17 JR新幹線利用(のぞみ23号) 14:08 広島駅 14:50 広島市青少年センター</p> <p>東村山駅(西武線) 18:20 夕食 19:40 ホテル</p> <p>【昼食:車中にてお弁当】</p> <p>※広島被爆者体験講話聴講グループワーク とうろう作り</p>	広島
2	8/6(月)	<p>6:00 ホテル(朝食) 7:15 (式典参加) ※式典:8:00～8:45 式典に参加し、原爆死没者に哀悼の意を表し、恒久平和の実現を祈りました。</p> <p>10:40 広島城 12:10 昼食 13:30 本川小学校平和資料館 ※被爆した旧国民学校の建物の一部を利用した平和資料館を見学しました。</p> <p>18:00 とうろう流し ※前日に作製したとうろうを流しました。</p> <p>9:30 爆心地見学 9:45 袋町小学校平和資料館 ※保存されている被爆した校舎を見学し、平和を学びました。</p> <p>15:00 広島市青少年センター ※グループ学習</p> <p>18:20 夕食 19:30 ホテル</p>	コートホテル広島
3	8/7(火)	<p>7:00 ホテル(朝食) 8:30 原爆の子の像 8:55 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・広島平和記念資料館 ※戦争や原爆に関する資料に触れ、平和について学習しました。</p> <p>10:40 原爆ドーム 11:10 原爆ドーム前 ※原爆ドーム前電停より広島駅まで被爆路面電車(貸切)に乗車しました。</p> <p>16:53 東京駅 JR新幹線利用(のぞみ130号) 【昼食:車中にてお弁当】</p> <p>●到着時間 東大和市駅 18時30分頃 東村山駅 18時30分頃</p>	

## 2

## 参加者名簿

◆市も学年も混合の3つのグループを編成し学習しました。

参加者：東大和市 10人（男 6人 女 4人）

東村山市 10人（男 2人 女 8人）

報告会：Bグループ 8月18日（土）東大和市「平和市民のつどい」

A・Cグループ 8月26日（日）東村山市「平和のつどい」

グループ	名 前	学 校	学 年
A	かくの 優介 角野 ゆうすけ	東大和市立第七小学校	6年
	かわむら 光莉 河村 ひかり	東村山市立東村山第二中学校	2年
	こいで 來未 小出 くるみ	東村山市立八坂小学校	5年
	こもり 月愛 小森 るな	東大和市立第九小学校	6年
	ささき 理駆 佐々木 りく	東大和市立第二小学校	5年
	にしはら 茉莉子 西原 まりこ	東村山市立東村山第三中学校	1年
B	しのはら 祈 篠原 いのり	東大和市立第三小学校	5年
	じん 風桜 神 ふうり	東大和市立第六小学校	6年
	たなか 眞綾 田中 まあや	東村山市立青葉小学校	6年
	てしま 誠矢 手島 ともや	東大和市立第二小学校	6年
	とうはら 彩緒里 東原 さおり	東村山市立東村山第五中学校	1年
	ひらさわ 拓真 平澤 たくま	東大和市立第八小学校	5年
	やまさき 海和 山崎 かいと	明治大学附属中野八王子中学校	2年
C	あおやぎ 駿介 青柳 しゅんすけ	東大和市立第五小学校	6年
	てるい 美優 照井 みゆ	東大和市立第四小学校	6年
	ふかがわ 幸樹 深川 さき	東村山市立東村山第三中学校	1年
	まつうら 光音 松浦 ひかり	東村山市立八坂小学校	5年
	みやもと 武 宮本 たける	東大和市立第七小学校	5年
	もとはし 奈々 本橋 なな	東村山市立東村山第二中学校	3年
	もり 心憂 森 みゆ	東村山市立富士見小学校	5年

## 3

## 地域の戦争・平和学習会

◆小・中学生たちは、東大和市と東村山市の施設を見学し、自分たちが住んでいる身近な地域でも戦争の被害があったことを学びました。

スケジュール 7月27日（金）

午前 東村山市「被爆石モニュメント」見学、「東村山ふるさと歴史館」見学、東大和市「戦争体験映像記録DVD」視聴

午後 東大和市指定文化財「旧日立航空機株式会社変電所」見学  
グループワーク「地域の戦争・平和学習について感じたこと」「広島で学びたいこと」

## 被爆石モニュメント

地域の戦争・平和学習会の第一歩として、「被爆石モニュメント」を見学しました。

これは、原爆が投下されたことにより被爆した、広島市役所旧庁舎の庭にあった敷石と、長崎市立山里小学校の校舎の壁の一部を東村山市が譲り受け、平成元年9月25日に「被爆石モニュメント」として東村山市中央図書館前に設置したものです。

長崎市の山里小学校は、爆心地から約620mのところにあり、原爆の熱線を浴び、多くの命が奪われました。このモニュメントを通して、原爆の恐ろしさの人々に訴え続け、市民の平和を願います。



## 東村山ふるさと歴史館

「東村山ふるさと歴史館」で、東村山市における戦争の被害について学びました。

当時、東村山地域にもB29が飛来し、照明弾と時限爆弾が投下されたことや、これにより家屋が被災し、死者もいたことを教わりました。そのような中、低空飛行していたB29が南秋津に墜落、乗組員全員が死亡しましたが、後に、地元に住む市民の手によって平和観音が建立され、手厚く葬られています。

東村山市には軍事施設である「東京陸軍少年通信兵学校」があり、全国の15歳から18歳までの少年たちが在学し、モールス信号の送受信や通信機の扱い方について訓練を受け、戦地で作戦命令や報告を通信しました。

これら当時の状況を東村山ふるさと歴史館の職員から聞き、展示等を通じて学習しました。





## 戦争体験映像記録DVD視聴

東大和市では、戦後70年の節目である平成27年、平和の大切さを再認識するとともに、戦争を風化させること



とがないように、旧日立航空機株式会社に勤務されていたかたの戦争体験談、旧日立航空機株式会社変電所の歴史や現在の姿をまとめた映像記録「沈黙の証言者～私たちのまちは戦場だった～」を制作しました。

証言された方々の話から当時の様子が目に浮かぶようで、そのときの様子を想像しながら視聴しました。

## 旧日立航空機株式会社変電所

旧日立航空機株式会社変電所は昭和13年、当時の東京府北多摩郡大和村に建設が開始された飛行機のエンジンを製造する軍需工場に電気を供給する重要な施設でした。昭和20年にはほかの多摩地域の軍需工場と同様に、度重なる米軍の空襲を受け、従業員や家族など、あわせて111人の尊い命が失われました。

学習会では、普段は公開されていない施設内にも入り、おびただしい数の機銃掃射や爆弾の痕を確認しました。あわせて、東大和市立郷土博物館の職員から施設周辺の状況や、働いていた方々の被害についても説明を受け学習しました。



## グループワークでのまとめ

これらの学習のまとめを行うために、3つのグループに分かれ、グループワークを行いました。

「地域の戦争・平和学習について感じたこと」「広島で学びたいこと」を付せんに書き模造紙にまとめました。最後にグループごとに発表しました。



## 4

## 広島派遣

1日目  
8/5(日)

広島被爆者体験講話の聴講

広島市青少年センター

講師：切明<sup>きりあけ</sup>千枝子<sup>ちえこ</sup>さん

広島に原子爆弾が投下された73年前、高等女学校4年生だった切明さんから話を聴きました。戦争が激化すると、切明さんを含めた学生は学校ではなく、工場などで働くこととなりました。人類史上初の原子爆弾が広島に投下されたときも働いており、偶然建物の陰にいたため、一命を取りとめました。周りの人たちの多くは全身大火傷などで、そのまま亡くなりました。「学校に行きたいと切に思った」という切明さんの言葉に、言い表せない悲しみを感しました。また、「平和とはみんなが努力して持続させていくもの」という言葉は、聴いていた小・中学生たちの心に大きく響きました。

切明さんのお話を聴き、小・中学生たちは、あの日に何が起こったのかを体験談を通じて知り、原子爆弾の恐ろしさ、戦争の悲惨さ、平和の大切さを学ぶことができました。

聴講後、グループごとに分かれ、講話の感想や今後の平和活動に対する関わりかたなどについて話し合い、発表をしました。



## とろう作り

二度と戦争を起こしてはならないと、平和の大切さを願い、とろうにメッセージを書きました。小・中学生たちの想いが描かれたとろうが出来上がりました。

2日目  
8/6(月)

平和記念式典 (広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式)



広島市の平和記念公園において行われた、平和記念式典に参列しました。平和記念公園には、被爆者やその家族、広島市民、そして世界各国から平和を願う人々が集まりました。原子爆弾が投下された8時15分には、恒久平和と原子爆弾により命を落とされたかたへの哀悼の意を込め、黙とうを捧げました。

## 島病院（爆心地）

テニアン島から飛来した米軍機B-29「エノラ・ゲイ号」によって人類史上最初に使用された原子爆弾は、この上空約600mで炸



裂しました。爆心直下となったこの一帯は約3,000度から4,000度の熱線と爆風や放射線を受け、ほとんどの人々が瞬時にその生命を奪われました。

## 袋町小学校平和資料館

袋町小学校平和資料館は、被爆した校舎（西校舎）を改装して造られています。

原子爆弾により木造校舎は全壊全焼し、鉄筋コンクリート3階建の西校舎は外形のみを残して焼失しました。学童疎開をしないで登校していた児童、教職員約160人が朝礼直後に被爆し、ほとんどが犠牲になりました。被爆後、西校舎は救護所となり、階段室の壁面には被爆者の消息を知らせる多くの伝言が残されており、当時の様子を感じることができました。



## 広島城

現在は再建されていますが、原子爆弾により広島城天守閣は倒壊し、石垣だけが残りました。小・中学生たちは、復元された天守閣や被爆樹木であるユカリなどを通して、広島城と原子爆弾の被害について学びました。



## 本川小学校平和資料館

爆心地から最も近く（約410m）にあった旧本川国民学校の校舎にある平和資料館を見学しました。

そこでは、被爆二世のボランティアガイド岩田美穂さんから、原爆によって家族5人を失い、一人だけ生き残った母親の体験を聴きました。被爆数日前に一家6人で撮った写真とその体験談は、小・中学生たちに「戦争を絶対に繰り返さない」という思いを強くさせました。



## とうろう流し

平和記念公園の脇を流れる元安川で行われたとうろう流しに参加しました。前日に作ったとうろうに平和への願いを込め、一人一つずつ川へ流しました。

たくさんの人たちの願いが込められたとうろうが流れていく光景は、とても美しく、平和であることの感謝や今後もこの平和を守り続けていかなければならないという強い気持ちが生まれました。



3日目  
8/7(火)

## 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館・広島平和記念資料館

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館は、国として、原爆死没者の尊い犠牲を銘記し追悼の意を表するとともに、永遠の平和を祈念するために建てられた施設です。

広島平和記念資料館は、被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真や資料を収集・展示するとともに、広島歩みや核時代の状況などについて紹介しています。資料の一つ一つには、人々の悲しみや怒りが込められています。8時15分で止まった時計や、被爆し原爆の犠牲となった人々の衣服の展示がありました。



## 原爆の子の像



2歳のときに被爆した佐々木禎子さんは、9年後白血病を発症し、回復を願い、折り鶴を折り続けましたが、12歳のときに亡くなりました。このことをきっかけに原爆で命を落とした子どもたちの霊を慰め、平和を築くための像が完成しました。そこには平和を願い折った数多くの折り鶴が捧げられていました。参加した小・中学生も自分たちで折った折り鶴を捧げ、平和を願いました。

## 平和の灯

1964年8月1日に点火されて以来、ずっと燃え続けており、核兵器が世界中から無くなるまで燃やし続けようという反核悲願の象徴となっています。



## 原爆ドーム

1915年「広島県物産陳列館」として建築され、戦時中は「広島県産業奨励館」と改称しました。原爆投下に際し、爆心地至近(約150m西方)にあったため、元の建物の中央ドーム部分を残し破壊されました。戦後、周囲の復興が進む中、唯一破壊されたままの姿で取り残され、一時は「原爆のことを思い出したくない」という声もあり、解体の話も出ましたが、1995年に国の史跡に指定され、翌1996年に世界遺産として登録されました。



## 被爆路面電車

原爆ドーム前から広島駅まで、被爆した652号電車に乗りました。この652号電車は、原子爆弾投下時、宇品付近を運行中に被爆しました。幸い、被害が少なかったため、8月中に復旧し、再び走り始めた姿は、壊滅的打撃を受けた広島市民に大きな勇気を与えました。



# 5

## 報告会

◆本事業は、東大和市と東村山市の共同実施事業のため、報告会は、各市で実施した平和行事の中で行いました。事業を通して勉強し、分かったことや気付かされたこと、そこから何を感じ、思ったのかを発表しました。AからCまでの3グループのうち、Bグループが東大和市「平和市民のつどい」、A、Cグループが東村山市「平和のつどい」で発表を行いました。

### 報告会準備

8月18日(土)の東大和市「平和市民のつどい」にBグループ、8月26日(日)の東村山市「平和のつどい」にAグループ及びCグループが報告を行うため、報告会の準備をグループに分かれて行いました。

地域の戦争・平和学習において東村山市のふるさと歴史館や東大和市の旧日立航空機株式会社変電所で学び感じたこと、また、広島派遣事業において広島を訪問し様々な場所や資料、被爆体験者の講話より学び感じたことについて自分自身の感想を含めまとめました。報告会での発表のためにスライドも作成し、わかりやすい説明ができるよう発表の練習を何度も行いました。



## B グループ

地域の戦争・平和学習を通して、生まれ育った東大和市や東村山市でも戦争の被害があったこと、自分たちとあまり変わらない年代の人が、東京陸軍少年通信兵学校で勉強していたことに驚き、戦争が身近にあったことを報告しました。広島派遣では、平和記念式典に参列し、年々被爆者のかたが減っていることを実感し、被爆者の話に耳を傾けることが重要であること、また学んだことを後世に伝えていくことが平和を継続させる上でとても重要なことだと語ってくれました。原子爆弾の威力はすさまじく、多くの人の命を奪い、使われた後人も人を苦しめる、あってはならないものであることを強く伝えてくれました。

また、事業に参加した感想を以下のように、一人ずつ発表しました。

・私は広島に行ってきた一番心に残ったことは被爆者の話です。理由は戦争の被害について知れて、改めて戦争の悲惨さ恐ろしさを感じられたからです。

・心に残ったものを発表します。3日目に行った原爆ドームです。原爆の被害をうけて、中にいた全員が一瞬で亡くなり、残ったのはれんがの所だけになりました。僕は原爆の被害がもっとわかりました。これからもみんなが平和になるように戦争は二度と起こしてはいけないと思いました。

・僕は、戦争の恐ろしさを学ぶだけではなく、それを多くの人に伝えていくことが大切だと思いました。戦争の恐ろしさについてたくさんの人に知ってもらい、平和な世界が続いてほしいと願う人が増えてほしいと思いました。

・広島派遣事業で心に残ったことは原爆ドームです。

たった一発の原爆でコンクリートの建物を一瞬でこのような形にしてしまって、とても怖いけど、そんな中生きていた人は、どれだけ怖かっただろうなと思いました。

・地域の戦争についての学習で、東村山市については東京陸軍少年通信兵学校があったこと、東大和市については、空襲による被害を受けながらも操業を続けた旧日立航空機株式会社変電所があることを学びました。東京陸軍少年通信兵学校に全国から志願者がいたことに驚き、旧日立航空機株式会社変電所は空襲を受けてからも長く操業を続けていたことは驚きました。

・広島では切明さんの話を聞いて、戦争には人だけではなく、動物までも連れていかれ、けれど動物は何も帰って来なかったのが、すごく悲しいと感じました。平和記念式典では小学生の平和への思いがすごく心にしみました。

・日本には戦争の悲惨さを伝えてくれる人や、物があります。しかし、その悲惨さを伝えてくれる人や物は減っていています。人や物から学び、外国のかたや、後世に今度は自分たちが伝えていかなければならないと思いました。



## Aグループ

旧日立航空機株式会社変電所では、機銃掃射による穴が残っており、戦争の危険さ、悲惨さを実感し、改めて戦争は間違っていることだと話してくれました。広島派遣で見学した広島城は、原子爆弾の爆心地に近く、爆風により天守閣が壊れてしまったこと、また、大きな広島城を一瞬で壊してしまうならば、人や物は簡単に吹き飛ばされるであろうと思い、原子爆弾の恐ろしさについて語ってくれました。原子爆弾の爆風で助かったとしても、原爆症の恐怖があり、安心できないことを、原爆の子の像へ折り鶴をささげた際に感じたとのことです。Aグループは、原爆は危険なものであり、広島での出来事はこれからは絶対にあってはいけないものであり、それで苦しんでいる人たちの気持ちを考え、私たちが平和のためにできることがないか、考えたいと発表してくれました。

また、事業に参加した感想を以下のように、一人ずつ発表しました。

・広島で、切明さんの話を聞いて、戦争に兵隊の人と一緒に動物(犬、馬など)が連れられていて、人の命だけじゃなくて、動物の命も奪ったから、とても悲しいと思いました。

東村山市、東大和市、広島で学習して平和の大切さが分かりました。私たちが、平和をずっと守っていきたくと思いました。

・広島原爆は、約1キログラムにも満たないものの核分裂でした。50キログラムすべてが核分裂したら、被爆者は、さらに増え、倍以上の人が亡くなってしまうのではないかと思います。原爆や核ミサイルを作らないでほしいと思いました。

・広島平和記念式典では、市長さんや代表の人は核兵器が今も世の中にたくさんあると言っていたの

で、核兵器がなくなれば・・・と思いました。戦争は少しでも忘れてはならないこと、少しでも平和のためにできることを私たちはやらなければいけないと思いました。

・切明さんのお話で、幼くても、工場で毎日働かされたことを聞き、僕の祖父も戦時中、とても辛い思いをしていただろうな、と思いました。僕は、切明さんのおかげで、戦争とはどのようなものかをよく知ることができました。次は、僕がそれを伝える立場になりたいです。

・原爆によって、火傷を負った人がたくさんやってきて、水をくださいと言ってきたそうです。しかし、水をあたえてしまうと死んでしまうため、あげることができず、その後死んでしまったそうです。私は自分と同じ年ぐらいの人が火傷で苦しんで亡くなり、すごくつらかったんだろうと思いました。今回のこと全てを通して、平和の大切さを学び、努力して平和を守っていこうと思いました。

・原爆ドームや、原爆の子の像、平和記念式典などいろいろなことを見て、原爆によってたくさんの人が苦しんで亡くなって、今でも苦しんでいる人がいる事実、「広島の人みんな平和を願っている」ということを知り、改めて、戦争は、絶対にしてはいけないということを知りました。





## C グループ

東村山ふるさと歴史館で戦争の歴史を学び、多くのかたが亡くなったことや、東村山市でも不発弾処理が行われたということを知り、身近な地域の被害が大きく、驚いたことを報告しました。参列した平和記念式典では、原爆死没者名簿に約5千人のかたが納められ、今も原子爆弾による後遺症で苦しみ、亡くなっている人がいることを実感したとのことです。袋町小学校平和資料館では、原子爆弾の爆風から残った校舎の壁や黒板に、家族の安否や自分の存在を知らせようとしていたことを知り、とても悲しい気持ちになったと話してくれました。戦争中は多くの人が苦勞をしていて、とても大変な時代であったことが分かり、戦争はもう二度としてはいけないものだと言ってくれました。

また、事業に参加した感想を以下のように、一人ずつ発表しました。

・広島平和記念資料館に展示されていた服はたくさんさんの血がつき、すごく破れていた。原爆というのはすごい威力で、半径2km以内をすべて壊してしまうような想像できない力だと思いました。

・切明さんのお話では、「二度と戦争をさせたくない、したくない。日本には、平和が続いている。今が幸せだ。」と言っていました。ぼくも、戦争はしたくないと思いました。話し合いで解決したいです。

・私は、この平和学習を通して、戦争の苦しさをたくさん感じました。広島で聞いた切明さんの話で「水を一口も飲ませてあげられなかった。」ということを知り、今は自由に飲めるのにと悲しくなりました。ほかの被爆した物や建物などを残して、同じことを起こさないように、そう一人一人が思うことが平和を守ることだと思いました。

・私は、この平和学習で一番心に残ったものがあり

ます。それは、広島平和記念資料館です。どうして一番心に残ったかということ、広島平和記念資料館では当時広島でどのように原爆が落ちたのか立体で見たり、そのときのケロイドや放射線での被害の写真や説明、焼け焦げた服、道具が、溶けたり黒く焼けていた実物がおいてあり、より当時のことや原爆はどれだけつらいことだった、ということが学べたから一番心に残りました。

・東村山市や東大和市にも東京陸軍少年通信兵学校など当時の難関校があったり、兵器補給廠があったり、戦争の大きな役目を果たしていました。旧日立航空機株式会社変電所では、戦争の時に受けた傷がまだ残っていました。僕はこの事業を通して戦争があってはならないことや身近な所でも戦争に関連するものがあることを知りました。

・被爆者の切明千枝子さんの話を聞いて馬や鳩、犬までもが戦争に連れて行かれたということを知り、火傷がひどい人は水さえも飲むことが出来なかったということが一番印象的でした。

・私がこの広島派遣事業で一番伝えたいと感じたことは、平和を守ることの大切さです。切明さんも、「平和は黙っていてもやってこない。平和を自分の力で守る努力をしましょう。」とおっしゃっていました。平和でなければ、今のような豊かで幸せな生活はできません。どんなことがあっても平和を守り続け、戦没者の方々の願いを叶えるべきだと思いました。



## A グループ

A  
グループ

## 戦争を知り、平和を願う

角野 優介

僕の祖父は、戦時中に学徒動員で長崎にいました。長崎に原爆が落ちたとき、ちょうど出かける直前で、くつをはこうとしてかがんでいたため、直接被爆しないで済んだそうです。けれども、祖父は僕が幼いときに亡くなったので、祖父から戦争の話聞いたことがありません。だから、この広島派遣事業で被爆者のかたのお話が聞けると知り、ぜひ参加したいと思いました。

まず、7月27日に、地域の戦争について学びました。東村山市に、広島と長崎で被爆した石のモニュメントがあることを、このときに初めて知りました。東大和市では、旧日立航空機株式会社変電所を見学しました。変電所へは何度か行ったことがありましたが、焼け跡が修復されずに残っている2階には、初めて入りました。階段の途中の壁に空いた大きな穴を間近で見ると、戦争の激しさを実感しました。

そして、8月5日から7日の3日間、広島へ行きました。広島へ向かう新幹線の中で、広島で学びたいことを考えたり、心を込めて折り鶴を折ったりしました。

広島に着き、まず初めに被爆者の切明さんのお話を聞きました。広島には大きな陸軍があったためアメリカ軍にねらわれたことや、犬や馬、ハトも戦場に連れて行かれたことなど、たくさんのお話を聞きました。その動物たちは、1匹も帰って来なかったそうで、僕はとても悲しくなりました。一番心に残ったのは、原爆から、鉄が溶ける温度の2～3倍も高い、4,000～5,000度もの熱が放たれた、というお話です。鉄が溶けるくらいなら、人なんか簡単に死んでしまうだろうな、と考えるととても怖くなりました。切明さんのお話の後には、とうろうを作ったり、広島焼きを食べたりしました。

2日目は、朝6時に起き、平和記念式典に参加するため、平和記念公園に行きました。うだるような暑さの中、広島に原爆が落ちた8時15分から1分間、黙とうをしました。僕は、二度と同じようなことが起こってはいけない、と思いながら、心を込めて祈りました。式典の後、公園内にある原爆の子の像を見学しました。原爆で亡くなった子どもたちのことを思いながら、新幹線の中で折った折り鶴をその像にささげました。それから、爆心地や袋町小学校、広島城、本川小学校など、たくさんの被爆

跡が残された施設を見学しました、そして、原爆ドームを訪れました。昔はドームの中に入ることができたそうですが、老朽化が進み、今は敷地内に入ることさえできなくなったそうで、少し残念に思いました。ドーム内の2階から5階の床が全て崩れ落ちてしまったにも関わらず、これまで大切に保存されてきた原爆ドームは、これからもずっと残ってほしいと思いました。その後、前日に作ったとうろうを持って、とうろう流しに参加しました。「もう二度とこの川が汚れることがありませんように」と、川いっぱい広がる色とりどりのとうろうをながめながら思いました。

最終日の3日目には、平和記念資料館を見学しました。原爆によってボロボロになってしまった服や時計、三輪車などをみて、それを使っていた人たちのことを思うと、とても悲しくなりました。それから、広島駅まで路面電車に乗りました。その路面電車は被爆したものだったので、73年経った今でもまだ動いていることにとっても驚きました。帰りの新幹線の中では、「滋くん弁当」を食べました。滋くんは13才で被爆し、自分で収穫した作物でお母さんに作ってもらったお弁当を、食べることなく抱えたまま亡くなってしまったそうです。僕は、この質素な、でも当時としてはとてもごうかだったであろうお弁当を食べながら、平和のありがたさをかみしめました。

東京へ帰って3日後に、報告会の準備が始まりました。僕は、被爆者の切明さんのお話と式典について発表することにしました。発表日までたくさん練習しました。

そして、8月26日の報告会の日になり、東村山市の中央公民館で行われた「平和のつどい」に参加し、発表をしました。僕はとても緊張しましたが、練習通りに上手に発表できたと思います。

この1か月間で、戦争の残酷さ、そして、平和の大切さを、身を持って理解することができたように思います。73年間続いたこの平和が永遠に続くように、僕たちもこの戦争で起きた事実を後の世代に伝えていかねばならないのだと思いました。僕は、この広島派遣事業で学んだことを忘れずに、切明さんのようにみんなに平和の大切さを伝えられるよう、今後も学び続けていきたいと思っています。

## 平成最後の夏に体験したこと

河村 光莉

私はこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業を通して、今まで知らなかった地域での戦争の被害や、実際に広島に行って、戦争の恐ろしさと平和の大切さを学びました。

普段は戦争のことをあまり深く考えてはいなかったのですが、この事業に参加して戦争のことに対しての考え方が変わりました。

東村山市、東大和市どちらの市も東京の都心とは離れていますが、戦争の被害がありました。このことを知ったとき、すごく驚きました。たくさんのかたの命がこの戦争によって奪われたというこの事実は私と同年代の人はあまり知らなかったと思うので、このことをいろいろな人に伝えていきたいと思いました。

広島派遣事業では、原爆のことについてたくさんのかたのことを知りました。原爆という言葉はみんなも知っているとは思いますが、これがどういった被害があるか、詳しくは知らないと思います。私は被爆者のかたの話聞いて、当時の学校での様子や、原爆のことについて学びました。すごく悲しそうなお顔を願いながら一生懸命私たちに話してくれる姿に心を動かされました。

平和記念式典に参加させていただいて、私は小学6年生の代表生徒が平和への誓いを読んでいたとき、当時の様子がどんなだったのか、想像しながら聞きました。助けてと泣き叫びながら倒れていく子どもや、血まみれになった広島風景。想像するだけで、胸が痛くなりました。戦争から73年たった今も苦しんでいる人がまだいるということや、まだ折り鶴を折り続けて平和を願っている人たちの思いも忘れてはならないと思いました。

今は広島も活気があふれています。とても明るく、お店もたくさんありますし、食べ物もおいしいです。けれども、その明るい人たち、活気のある広島町の中に被爆者のかたの思いがありました。それは原爆ドームです。明るい街にぽつんとある原爆ド-

ームは、当時の風景を物語っているようでした。ぼろぼろの外見でしたが、当時の苦しい思いを忘れさせないため、後世にもずっと残していてもらいたいです。

私たち人間はこの戦争で多くの人の命が奪われた事実、そして、広島に原爆が投下された事実を忘れてはいけないと思います。どんな思いで73年がたち、どんな思いで広島が今の明るい街になったのか、これを忘れてはいけません。私はこの地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業でこの絶対に忘れてはいけない事実を、絶対に忘れません。二度とこのような悲惨なことがおこらないよう、私たちがこの手で後世に伝えていかななくてはなりません。



## 平和を願い

小出 來未

私は、この事業に参加し、よかったと思います。そして、思ったことが3つあります。

1つ目は、8月5日の切明千枝子さんの広島被爆者体験講話です。戦争のとき、人間と一緒に動物も連れていかれたそうです。そして、人間と同様に動物も命を奪われた話を聞き、私はとても悲しかったし、胸が苦しくなりました。切明さんも同じ思いをしていたと思います。そして原爆を落とされたとき、切明さんは屋内にいて助かりましたが、外にいたほとんどの人は助からなかったそうです。助かったとしても、全身に火傷を負っていて、「水をください」と言うけれど、飲むと死んでしまうのであげられなかったそうです。何も悪いことをしていないのに、命をたくさん奪い悲惨です。切明さんの話を聞き、原爆が落ちた当時のことを知り、勉強になりました。

2つ目は平和記念公園で行われた平和記念式典です。外国人や私たちみたいに平和学習で訪れた人たちが参列していました。平成29年8月6日から、平成30年8月6日の1年間、原爆の影響で5,393名のかたがお亡くなりになりました。そして、今までの死没者と合わせて314,118名になりました。今でも原爆の後遺症に苦しんでお亡くなりになれる人がいると知りました。8時15分には平和を願いながら黙とうをささげました。そのあと、広島市長や安倍首相などのあいさつがありました。その中でも私は、小学6年生の平和への誓いがとてもすばらしいと思いました。平和への誓いを聞き、自分たちが平和の大切さをきちんと伝えていきたいと思いました。最後にひろしま平和の歌を死没者に思いを込めて合唱しました。平和記念式典に参加してよかったです。

3つ目は広島平和記念資料館です。そこには戦争のときの貴重品が展示してありました。また、アメリカ前大統領のバラク・オバマさんの折り鶴な

ども展示されていました。特に印象に残ったことは、原爆でボロボロになった三輪車です。私は三輪車を見たとき、これは原爆の恐ろしさや悲惨さを伝えていると感じました。もう1つあります。それは兵隊の人の服です。血などが付いていて、片方の袖はほとんどありませんでした。原爆は恐ろしいと、とても感じました。広島平和記念資料館で色々なことを見て学べました。

私は平和学習を通して、平和はとても大切だなと思いました。世界中どこでも、命を奪う武器は使ってほしくないです。戦争の苦しみを知らない私たちは、少しでも戦争当時のことを知り、二度と同じことを繰り返さないことが大事です。この体験は一生の思い出です。被爆者の切明さんの話や、資料館などで見た貴重品を忘れずに色々な人に伝えていきたいです。



## 平和を守るために…

小森 月愛

私は、東大和市、東村山市、そして広島市の3つの戦争について、20人の参加者とともに学びました。東大和市、東村山市の戦争については、7月27日に見学したり聞いたりしました。まず、東村山市の被爆石モニュメントを見学しました。形がくずれていて、原爆はこんなにもおそろしい力を持っているんだと感じられました。そして、東村山ふるさと歴史館では、戦争中は機械を使って通信をしていたことがわかり、聞き取り方も覚えられないので自分ではとてもできないと思いました。さらに、戦争体験映像記録DVDを見るだけでも空襲の、戦争のおそろしさやきょうふが伝わってきました。このころの人たちは、とても怖い思いをしていたんだと感じました。

東大和市では旧日立航空機株式会社変電所を見学し、本物の銃弾も見せてもらいました。銃弾は小さかったけれど、すごく重かったのでびっくりしました。もしも銃弾がとんできたらひとたまりもないと思いました。

その後地域の戦争・平和学習会が終わり、8月5日～7日の2泊3日で広島の戦争のことについて学びました。

1日目は切明さんのお話を聞きました。水をのませられなかったことは、とてもつらかったと思います。それに、動物も戦争に行ったことを教えてくれました。動物ははとや犬、馬などがつれさられ、はとや犬は伝言係、馬は荷物係として働かされましたが、戦地からはみんなかえってこなかったと話してくれました。それからいろいろと話してくれて、戦争はあってはならないという思いが伝わって、とても心に残る言葉、話でした。切明さんは、思いのまま話してくれたんじゃないかなと私は思います。

そして2日目、思い出に残ったことが3つあります。1つ目は平和記念公園です。73年前、今日

と同じ日に原子爆弾がおとされ、人々は一瞬にして焼きつくされました。たった1つの原子爆弾の放射線や熱線、そして爆風で人々の命と笑顔、その家族がはかいされることになったことを改めて感じられました。2つ目は袋町小学校です。袋町小学校は爆心地からもっとも近かったため、亡くなった人や行方不明になった人が多くいました。建物も鉄のコンクリートの部分が残っているだけだったと聞いてびっくりしました。伝言を見たら、かなしい気持ちでいっぱいになります。また、原爆の力はすごいなと改めて思うことができました。3つ目は広島城です。広島城はとっても大きかったです。広島城に行くまでは3つの被爆樹木がありました。ユーカリやマルバヤナギです。原子爆弾の被害にあっている樹木ということを知っていただきました。なかに入るときちょう品を多く見ることができ、戦争についてどのようなだったかを知ることができました。

そして3日目、心に残ったことは、原爆の子の像です。原爆の子の像の周りにはたくさんの折り鶴がささげられ、自分たちのもささげました。よく見ると鶴と鶴が助け合って飛んでいるように見えました。そして私たちが行った広島では戦争のことをしっかりと学ぶことができました。戦争をおこしてはならない、平和を守るため、せいっぱいの力と勇気が、この世界を変えたいと思います。戦争は二度とあってはならないように、自分たちで平和の心をもってこの世から核兵器をなくし、ずっと笑顔でいられたらどんなにいいことか…と思います。私もその力になりたいと改めて思いました。私が知ったことを次は家族や友だちにも教えて、その気持ちを大切にあげたいと思っています。ありがとうございました。

## 広島平和学習に行って

佐々木 理駆

今回平和学習で学び、日本が戦争をしていたことを身近に感じました。

ぼくは、小さいころに広島へ行ったことがあると聞かされましたが、ぼくはそのときまだ小さかったので何も覚えていませんでした。行く前には、昔日本でどんなことがあったか知らなかったので、参加することが決まりお父さんから「はだしのゲン」を読んでみなさいとすすめられ、予習のために読みました。ほかにも資料として「太平洋の戦い」を学校から借りてきました。

はだしのゲンを読んでみて思ったことは、ゲンは原爆が広島に落とされて被爆したのに、とても元気に子どもだけで、お金を集めるために、ガラス拾いや鉄くず拾いをし、自分たちで自分の家を建てるのがすごいなと思いました。ゲンには、元気と勇気があるのだなと思い、ぼくがゲンだったらすぐにつかれて、人にたよって自分の家は建てられないので、ゲンはすごいなと思いました。よく、遊びにいく東大和南公園には、戦争の跡が残っている旧日立航空機株式会社変電所がありますが、いつどんなこうげきで穴があき、まどガラスがわれたのか、知りませんでした。

ひいおじいちゃんは戦争経験者で、中国まで戦争に行ったことがあるそうです。全然話を聞くことができずに昨年亡くなってしまいました。おばあちゃんに聞いた話だと、ひいおじいちゃんは、通信班でラジオロケターを持って、移動をしていました。敵に見つからないように、コンクリートの厚いかべに囲まれた部屋でモールス通信をしていたそうです。戦争で負けたけど、ひいおじいちゃんに、住民の人たちはやさしくしてくれたそうです。中国から帰ってくる船の中では、シラミがいっぱいいたり、栄養しっちょうで亡くなった人がでたそうです。そして、ひいおばあちゃんの家は、旧日立航空機株式会社の社宅だったそうです。

ぼくは、ひいおじいちゃんから、戦争について話を聞けなかったのが、広島被爆者体験講話を聞いたことは、とてもきちょうな体験だったと思いました。

原爆で、かげが残ると言われている理由は、コンクリートを火で焼くと白くなり、原爆の熱線でコンクリートが焼かれて、人のかげの部分は、人が隠れているので、人のかげの部分以外が焼かれて白くなります。かげが残ったのではなく、人のかげ以外が白くなってかげが残ったようになるということです。

今、世界では、約1万発の核兵器があります。広島、長崎でこんな悲しいことが起きたのに、核兵器が減りません。これは、核兵器を持っていると、ほかの国からこうげきされにくいという理由だけです。広島、長崎で起きたひげきはもう絶対にくり返してはなりません。

しかし、これは戦争中に起こることとは限りません。7年前に起こった東日本大しんさいによる、福島原子力発電所やチェルノブイリの放射能もれも原爆に似ています。

原子力は簡単に大きなエネルギーを作り出せますが、正しい使い方をしてきけんな物なので、この先原爆はもちろん原子力発電所も考えなければなりません。

放射線が人体に与えるえいきょうは、まだ分からないことが多いです。日本は核兵器を戦争で使われた唯一の国です。なので再び核の被害にあう人が出ないようにしたいです。

今まで戦争は、教科書でのことだったり、テレビで昔のことをやっているなという気持ちでした。

それが、広島平和学習を通して、自分から戦争のことや、広島の前爆のことなどを勉強し、当時の様子や原爆のおそろしさを知ることができました。ぼくは、広島平和学習に参加できて、とってもためになりました。

## 未来を奪う戦争

西原 茉莉子

私は今回の広島派遣事業を経て多くのことを学んだので紹介していきたいと思います。

まずは地域の戦争についてです。東村山市には東京陸軍少年通信兵学校があり、15、16歳の人が2年間そこでモールス通信などを学んでいたそうです。この学校の跡地の一部には東村山中学校(現在の東村山第一中学校)が建てられました。当時東村山市にも爆弾が落とされていました。アメリカ軍は、爆弾を昼に落とすと打ち落とされてしまうため、爆弾が見えにくい夜に落とすようにしていたそうです。ただでさえ爆弾を落とされると怖いのに夜に落とされるともっと怖いのだらうと思いました。

東大和市には、旧日立航空機株式会社変電所がありました。その敷地の広さは57万5千坪もあり、東京ドーム約40個分だそうです。そこでは日本各地から集められた若い人たちが戦闘機のエンジンを作っていました。ところが2月17日7分間の攻撃で78人の人が亡くなり、3回の空襲を全て合わせて、100人以上の人が亡くなりました。まだ若くて未来があるのに無念だったらうと思いました。

次に広島でのことについてです。被爆者である切明さんにお話を伺いました。学校に行かなくてよくなり、最初の一週間はうれしかったが、戦争のために毎日、立ちっぱなしで働かなくてはいけなく学校にすごく行きたくなくなったそうです。また一週間は月月火水木金金として土日もなく働いていたそうです。中学1年生や2年生は瓦をどけたりする作業をやらされていました。8月6日、原爆が落とされ、切明さんは建物の中にいたので助かりました。しかし中学1年生、2年生は建物が全くない所で働かされていたため、光や熱をさえぎるものがなく一瞬にして亡くなってしまったそうです。そして、救護所ではたくさんの火傷を負った人がやってきて水をくださいと言ってきたそうです。

水を飲んでしまうと心臓がショックを受け死んでしまうため、あげることができませんでした。しかしあげなかったとしても、その後死んでしまったそうです。自分と同年位で重労働をして大変なやけどで苦しんで亡くなり、私だったらつらくて耐えられないだらうと思いました。

広島でもう一つ印象に残ったことがあります。それは原爆の子の像です。原爆の子の像は佐々木禎子さんがモデルとなっていました。彼女は2歳のときに被爆しましたが無傷でした。ところが被爆9年後、小学6年生のときに突然白血病になったのです。折り鶴を千羽折れば病気が治ると聞いた禎子さんは鶴を折り続けましたが、同年10月25日、8ヶ月間の闘病生活の後、生涯を終えました。この知らせを聞いた同級生たちが中心になって、禎子さんをはじめ、原爆で亡くなった多くの子どもたちを慰霊し、平和を守るための記念の像をつくらうと呼びかけ完成したのが原爆の子の像です。原爆はそのとき無事だったとしても安心できない恐ろしいものなのだと感じました。

戦争によってたくさんの命が奪われ、その人たちの未来も奪われてしまいました。現在私たちは幸い平和な生活を送れています。しかし世界では戦争が起きている国もあります。そのような国では昔の日本のように子どもが働いていたたり、たくさんの方が亡くなっています。平和な世界になるためには戦争をしている国が一つでもあってはいけません。だからこそ私たちは平和のためにできることを考え、戦争のない世界になるよう努力していく必要があると考えました。

## B グループ

## 学んだこと

篠原 祈

広島に行き一番心にひびいたことは、切明さんの「小学生でも、やれることはある。」とおっしゃっていたことです。私は「戦争は絶対にいやだ!」と書いていても、行動しなければ、なんの意味もなく、ましてやまわりの人に自分の意思を伝えることができないと思います。ですから、切明さんがおっしゃっていた様に、1人1人が強い意思を持ち、どんどん発信し、日本、いや世界にある戦争をなくしていくべきです。自分たちの未来を決めるのは自分たちです。戦争という最も他殺的でおそろしいものを、今すぐにでもなくしていきたいです。そして自分たちにできることは何かと考えたところ、平和について考えるということです。平和とは、「人々が血を流しあって争わないこと」「人々が手を取り合って協力すること」「だれもが平和を望むこと」「思いやりの気持ちを持つこと」だと私は思います。

では、今の日本はどうでしょう。私たち小学生は、毎日学校へ行って、おいしい料理を食べられてい

て、今まで憲法9条のおかげで72年間平和な日本です。でも一方、憲法9条を変えようとしたり、武器を買ったり、売ったり、いかにも戦争をする準備をしているみたいにもとらえられます。もし、「今夜戦争が起こったら」と考えると、夜も眠れません。きっと本当に72年前は、こわくてこわくて胸もはりさける思いだったと思います。本当に、このままの日本でいいのでしょうか。いや、本当にこの世界のままでいいのでしょうか。私は思います。「絶対にいやだ。」と。

年々、実際に戦争を体験した人たちが、他界され、今では戦争のことを語れる人も少なくなっています。この先のことを考えると、伝える人は私たちに なります。でも伝え方をまちがうと、また戦争を起こしてしまうかもしれません。

そうならないためにも、戦争について知り、考え行動することで、伝えていかないとならないと思いました。





## 広島に行ってきた

### 神 風桜

私は広島に行ってきたと思ったことが3つあります。1つ目は原爆の怖さです。8月6日に原爆が落とされて、たくさんの命が一瞬でうばわれていきました。たった1つの爆弾で広島の人々は亡くなっていきました。原爆は簡単に人の命をうばっていき、夢もうばっていきました。

2つ目は戦争のおそろしさです。戦争は原爆と同じく、人の命をうばいます。学生も働かないといけません。学校にも行けない、友だちとも会えないそんなつらい中、戦争の中で生きていました。私は考えるだけでぞっとします。

3つ目は切明さんのお話を聞いた感想です。私は初めて広島原爆を体験した話を聞きました。その時1番心に残ったのは、「亡くなった人を焼いたこと」です。私はその立場ならたえられません。目の前で人が死んでいくのも見たくありません。8月6日にはたくさんの人が苦しみ、悲しみ、家を失い、大切な家族まで失いました。

今では原爆の体験者が少なくなっています。この真実を未来に伝えるには、体験者の話を聞くことです。私たちができることをやっていけば、こん

な悲惨なことが将来起きないと思います。でも話を聞かなかつたり、未来に伝えなければ、また広島、長崎のようにたくさんの人が亡くなる戦争、原爆投下などの悲惨なできごとが起きてしまいます。

広島に原爆が落とされ、たくさんの人々が亡くなったと知り、なぜそのかたたちが亡くならなければいけなかったのだろうと思います。戦争をやるなら市民をまきこむなと思うし、死にたくないのに死ぬ、好きなものをやれない、学校に行けないなんて悲しいと思う。たしかに勉強はいやだと思うけど、学校に行きたくても行けないと考えると、今は平和で良かったなと思うし、この時代に生まれてきて良かったと思います。広島に行けて、様々な体験ができて良かったです。



## 広島でしか分からないこと

田中 眞綾

私は、今回初めて広島に行き、平和や戦争についてたくさん学びました。

小学校3年生の夏、新聞で原爆の記事を見て、私は原爆について興味を持つようになりました。夏休みの宿題の自由研究として調べて、もっと興味がわいて、4年生でも調べました。クラスの人に伝えられたものもあったけれど、何より私が、「調べ切った」と満足したのが大きく、5年生のときは調べませんでした。しかし、6年生になって、広島派遣事業のチラシを学校で見ました。元々は、好きで調べたものだったから、見てすぐ、心が踊るような感覚になりました。応募してからは、毎日結果はまだかと思うと心待ちにしていました。参加できることが分かった瞬間は、歓喜のあまり、叫んでしまいました。

最初の大きなイベントは「地域の戦争・平和学習会」でした。東村山市と東大和市の戦争について学びました。東村山市は通信兵になるための学校があったそうです。それは、「東京陸軍少年通信兵学校」という名前で、「東京」は新潟県に通信兵学校が出来たため、区別するために後からつけられたそうです。そこではモールス通信のやり方を習っていて、志願者はたくさんいたそうです。卒業した人は、実際に戦場で通信兵として活躍しました。東大和市には旧日立航空機株式会社変電所がありました。東大和市は3回もの空襲を受け、111人もの人が命を落としました。そのあとを残しているのが変電所であり、銃弾・爆弾のあとが月のクレーターのように残っていて、戦争の恐ろしさが伝わってきました。

8月5日から7日までの3日間、ついに、広島に行きました。

1日目は、被爆者のかたの体験談を聞かせて頂きました。戦時中の生活、原爆投下後に起こったこと、聞けば聞くほど、戦争の恐ろしさ、愚かさが分

かりました。

2日目は、平和記念式典、平和の灯、原爆の子の像、爆心地、袋町小学校平和資料館、本川小学校平和資料館、原爆ドーム、広島城に行きました。被爆したそのままの姿を今に残す物、当時の様子を写した写真と痛々しいあとを残したたくさんものを見ることが出来ました。見て、考えるだけで原爆の恐ろしさが分かりました。

3日目は、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館と広島平和記念資料館に行き、被爆路面電車に乗りました。広島平和記念資料館は、本館は工事中で東館のみ見ることができました。原爆投下直後の様子を描いた絵や、被爆した遺品、見ているだけで痛みが伝わってくるようで、辛くなりました。

私は、未来の日本は戦争をしない、今の平和が続いていくといいなと思います。そして、いずれは「必要ない」と、核兵器も戦争もなくなればいいなと思いました。



## 伝えていくこと

手島 誠矢

戦争に対するイメージは、国同士の喧嘩だと思っていた。しかし今回の平和学習会から考えが一変した。

最初のプログラムは、東大和市・東村山市の戦争についての学習だった。東村山ふるさと歴史館では、歯磨きをなめて空腹をまぎらわせようとしていたこと、敵軍に見つからないように光が漏れにくい電球が使われていたことを聞いた。現代では考えられない暮らしだったことから、戦争は人々が安心して生活ができず、不便を与えてしまうものなのだと感じた。

東大和市では、南公園にある旧日立航空機株式会社変電所で起きた爆襲で111人もの命がうばわれてしまった。弾丸によって崩されたり、穴が空いて内側から外が見える変電所のコンクリートの壁は爆襲の威力と恐ろしさを物語っていた。自分の住んでいる地域で激しい戦争の跡が残っていることを知り、遠い町の話で自分たちに深い関係はないと思っていた戦争が身近なことだったことに気づかされた。

広島派遣で一番心に残ったのは被爆者体験談だ。語り部の切明さんが戦争中の広島の様子について涙混じりに語ってくれた。なぜ、本当なら思い出すこともつらい悲惨な過去を僕たちに伝えているのかを考えた。戦争の恐ろしさを後世に伝え、二度と戦争を起こさせないためだと思った。通信手段として動物も戦場へ連れていかされ戻ってこなかったり、高校生になると毎日働かされたり、雑草や海水を調理した物を食べたりしたことなど原爆投下の前から過酷な状況であった。原爆によって30万人もの人が亡くなり、ほとんどの建造物が全壊した。東大和市の爆襲とは比べ物にならない大きな被害を受けた広島は地獄そのものだった。恐ろしい体験をさせたくないという切明さんの言葉に重みを感じた。

原爆ドームを近くで見た時、言葉が出てこなくなった。残っている鉄筋の骨組みが曲がっていた様子で、原爆の威力が一目で分かった。負の世界遺産となった原爆ドームは、補強工事が施され震度7にも耐えられるようになったと聞いたが、これは、戦争の惨状を伝え続けてほしいという広島の人々の願いが込められているのではないだろうか。僕は戦争の恐ろしさを後世に伝えていくことが大切だと思った。

僕は、この事業を通して戦争について学んでいくうちに、自分の考えも変わっていった。戦争は国同士の喧嘩ではなく、罪のない人が苦しめられたり、殺されてしまうことだと。

これから大切なのは、戦争について知らない人々に戦争の恐ろしさを伝えていくことだ。そうしなければ平和を維持することは出来ない。僕に出来ることは、この事業で学んだ戦争の惨状を周りの人に広めることだ。そして広めることによって相手の平和への意識を高めていくことがとても大切だと思った。



## 広島平和学習に参加して

東原 彩緒里

私は毎年テレビで広島平和記念式典を見ていました。今年その場所へ私が行けることになり、貴重な経験が出来る、と思いました。事前説明会で話を聞いて、色々な場所を見学できることを楽しみにしていました。

地域の戦争・平和学習会では、旧日立航空機株式会社変電所というところで電気を作っていましたが、爆弾によって壁や機械に穴があいていて悲惨なことがここで起きたのだと実感しました。

広島では、被爆者のかたのお話を聞きました。戦場には、人間だけではなくたくさんの動物たちも連れて行かれました。その動物たちも戻ることなく犠牲になったようです。とてもかわいそうなことだと思いました。広島平和記念式典では小学生の平和への誓いがとても心にしみました。世界各国のかたも参列していました。原爆の悲惨さを自分たちの国に伝えてもらうことを願います。袋町小学校平和資料館では、壁や黒板にチョークで書かれた伝言があり、爆風により壊れた扉や窓を見て、原爆のすさまじさを感じる事が出来ました。本川小学校平和資料館は、資料一つ一つに多くの人々の悲しみや平和への願いがこめられています。当時、校庭には遺体が山積みになっており、火葬場とされていました。学校が遺体の山だったことなど今ではとても信じられません。原爆ドームは、爆風に耐え、よく建物が残っていたと思いました。テレビに映っている原爆ドームを実際に見ることが出来、戦争の恐ろしさを実感することが出来ました。平和の子の像のモデルとなった禎子さんは2歳の時に被爆し、10年後に白血病になり亡くなりました。病気が治ることを願いながら約千羽の鶴を折り続けました。被爆し何年後かに白血病で亡くなるという恐怖と戦いながら生きて行くのはとてもつらいことだと思います。私だったらとても耐えられません。とうろう流しでは、「平和が永遠に続きま

すように。」という願いを込めて書き、とうろうを流しました。世界中から戦争がなくなることが平和につながると思います。広島平和記念資料館の展示物は、血のついた洋服や灰になった道具、当時の悲惨な写真などがあり、戦争のすさまじさと恐ろしさを感じる事が出来ました。帰りの新幹線で食べた、再現した「折免 滋くんのお弁当」は、切り干し大根と大豆のご飯だけでした。今では魚や肉などのおいしい食べ物がありますが、戦争中はとても質素な食べ物しかありませんでした。私は、今ある普段の食事を何でもおいしく食べようと思います。

このように、戦争の悲惨さや恐ろしさなどをたくさん学び、これから先は後世に戦争や原爆のことを伝えていったり、被爆者のかたに耳を傾けたりすることが大切だと感じました。戦争という争いは二度とおこしてはいけないと思います。この平和がいつまでも続きますように。



## 広島派遣事業で心に残ったこと

平澤 拓真

ぼくは、8月5日から8月7日まで広島派遣事業に参加しました。ぼくは、学校で配られた参加申し込み書を見て、原爆ドームや平和の灯をこの目で見てみたいと思いました。

1日目に心に残ったことは、被爆者である切明さんの話です。戦争中、くらしは大きく変わり、動物は戦争道具となりました。首に通信機を付けて敵の状況を知らせる犬や、軍人に手紙を運ぶ鳥など、動物は戦争に利用されました。戦争が終わって、多くの方が帰ってきましたが、動物は1匹も帰ってくることはなかったそうです。動物だけではなく、人々のくらしも大きく変わりました。1週間に土日ではなく毎日働きに行かなければなりません。そんな中、今から73年前の8月6日に原爆が落とされました。原爆の被害を受けて、全身の皮がめくれている状態で「水がほしい、水がほしい。」と、水を求めている人が多くいたそうです。みんな苦しみながら、1人また1人と水を飲めずに死んでいてしまいました。切明さんは、原爆のおそろしさ、原爆にはいいことなんて一つもないということを教えてくれました。ぼくは、この話を聞いて、原爆のおそろしさと、平和のためには原爆は二度と落としてはいけないということを学びました。

2日目に心に残ったことは、平和記念式典です。広島市の松井市長は、73年前いつも通りの朝が原爆により、一瞬で地獄絵図になったと話されました。多くの方が亡くなり、多くの方が苦しみ、多くの建物が壊され、青い空が真っ黒になる。このようなことが一瞬で起こりとてもこわいと思いました。また、世界平和のためにも、核兵器廃絶とも話されました。このことについて、ぼくも兵器は二度と作られたり使われてはいけないと考えました。この2つのことと平和を思い、もくとうをしました。

3日目に心に残ったことは、原爆ドームです。原爆が落ちる前は、広島県産業しょうれい館でした。

作物の検査をしていたそうです。しかし、原爆によって大きくて立派な建物が、半分以上崩されてしまいました。残った所が、れんがや鉄の所だけになってしまいました。悲惨なすがたになってしまった原爆ドームは、73年後の今でも、原爆のおそろしさを後世に、いつまでも伝えていきます。

ぼくは、広島派遣事業で学んだことは戦争は二度と起こしてはいけないことです。戦争は多くの人々を傷つけてしまいます。戦争に参加した兵士はもちろん、ぼくたちのような子どもまでも犠牲になりました。食べ物がなく栄養が取れず、亡くなってしまった人も多くいたと知りました。また、原爆を落としてはいけないことです。広島では14万人以上、長崎では7万人以上の犠牲者が出ました。ぼくは、こんな多くの人を殺した原爆をゆるしません。



## 「広島派遣事業を通して」

山崎 海和

広島派遣事業を通して、前より考え方が変わったような気がしました。

ちょっと話は変わりますが、今、学校で「中学生の主張」という、自分たちが社会問題に対してどう思っているかをポスターにすることを美術の授業でやっています。それで僕は被爆者のかたの話を活かすために原爆のことについて書くことにしました。

話を元に戻しますが、考え方が変わったなあと思ったのは学校や部活で何か問題が起こったとき、今まではあまり相手の立場や考えていることを理解しようともせず、自分の意見ばかり主張していましたが、相手のことを考えたり、物事から一歩引いて考えられるようになりました。それは広島に行き行って色々なことを見たり、聞いたりしたことで、変わったのかな？と思っています。人間関係も(そう思えない人もいるけど)そういう人もいるんだなと思うようになりました。イライラして、人に当たってしまうときもあるけれど、あんまりイライラしなくなりました。

僕が一番広島派遣事業で心に残っている場所は本川小学校平和資料館です。地下室には、原爆当時の時が閉じ込められているみたいで、とても不気味と言うか何と言うか言葉では表すことのできない雰囲気がありました。心に残っている場所がもう一つあります。そこは広島城です。なぜかと言うと個人的に城を見ることがおもしろいと思ったからです。

あと、広島で行きたかった場所は宮島に行きたかったです。添乗員さんの話にもあったもみじまんじゅうが食べたかったです。お好み焼きはおいしかったです。宮島に路面電車の車両で行けたみたいなので行って見たかったです。江田島にも行ってみたいです。呉に戦艦大和のミュージアムと海上自衛隊の旧海軍兵学校があるからです。

色々友達もできて楽しかったし、色々なことを学ぶいい機会になりました。学んだことを身近な人から知って欲しいと思いました。また来年違う見方で見れるかもしれないので、来年も参加できたらしたいです。



## C グループ

## 戦争は絶対にしてはいけない

青柳 駿介

ぼくは地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して、改めて戦争は絶対にしてはいけないことだと思いました。だから、友だちとずっと仲よくしていくことが大切だと思います。

地域の戦争として、戦時中の東村山市では空しゅう等で364人のかたが亡くなり、東大和市では111人のかたが亡くなったそうです。亡くなった人の多くは10代の人ほとんどで、自分と年があまり変わらない人たちです。もし自分がこの時代に生まれていたらと考えると、すごくつらいです。亡くなってしまった人は機銃掃射等で打たれ、もがき苦しんで亡くなってしまったというのは、もし自分が同じ立場だったらたえられません。東大和市には戦争のつめあとはあの変電所ぐらいだと思っていたけれど、この学習で平成2年に学校を立てるために土を掘り返したとたんに、無数の爆弾が見つかったことを知りました。戦争が終わってから73年経ち、もうこの町には緑があり家もたくさんある中で戦争があったなんて、信じられないけど土の中にはまだ戦争のつめあとが残されていると改めて感じました。

今回の事業に参加して心に残ったことは3つあります。

1つ目は本川小学校平和資料館です。そこには原爆ドームの側面のがれきや、爆風でとけてしまった窓ガラスが再び固まったけど、内部は液体のままのかたまりや、こげた窓枠等いろいろなものが残されていました。小学校は救護所や人の死体を焼く火そう場にもなっていたそうです。でもこういう窓やガラスを見ると、すごくこわくなりました。今でもこわくなるぐらいですから、原爆が落とされた直後はとても悲惨だったと思います。

2つ目は被爆路面電車乗車体験です。被爆した

車両は650形で、当時は5編成走っていたそうです。そのうち3編成は今も走っていますが、残りの2編成は原爆でこわれてしまったそうです。被爆車両は1両で、ゆかをはじめ全てのところが木製です。そんな木製の電車が80年くらいずっと走り続けている事はすごいことだと思います。原爆を体験した車両として、これからもがんばって走り続けてほしいです。

3つ目は広島平和記念資料館です。そこには広島、長崎の2つの原子爆弾の8分の1スケールのレプリカや原爆ドームの当時の様子や、オバマ前大統領がつくった折り鶴がかざられていました。他にはこげた三輪車や、人が着ていた服などがこざってありました。人が着ていた服は血がべっとりと付いて、ぼろぼろになっていて少しこわくなりました。世界中の人々がこの資料館に来て、原爆は恐ろしくみんなが不幸になるものだとなり、核兵器廃絶を願ってほしいです。

26日の平和のつどいに行く前は、「うまく言えるだろうか」、「もし、つかえてしまったらどうしよう」とずっと思っていました。でも実際に発表すると、あまりきん張せずに発表できてほっとしています。それに大きな声ではきはき言えて、よかったです。映画「火垂るの墓」は戦争のつらさや、ひどさ等をよく学ぶことができているいい機会だと思います。

地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して改めて戦争はしてはいけないことだと思いました。この学習は、次世代に戦争はいけないと伝えるいい機会だと思います。もう戦争が起きない世界になってくれたらいいと思います。

## 原爆の被害について知ったこと、感じたこと

照井 美優

私はこの、「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加して、自分たちが住んでいる市でも戦争があったことと、広島に行って、広島の方がもっとたくさんの被害を受けていたことの2つを知りました。

地域の戦争では、東大和市のことは知っていたけど、東村山市のことは、よく分からなかったのでとても勉強になりました。

東大和市について新たに分かったこともありました。1つは、たったの7分間で約100名ほどの命がうばわれてしまったこと。もう1つは、旧日立航空機株式会社変電所が空襲を受けた中でもゆいっつ現在まで残っている建物で、中に入ると、当時この中で働いていた人は、大変なめにあったんだろうととても分かったことです。

東村山市では、私が知らないことだらけでした。1つは、東村山市に、B29が落ちたことを知り、東村山市の人たちはいきなり落ちて来て怖かった人もいたのではないかと思います。もう1つは、東村山市の人だけでも、364人のかたの命がうばわれてしまい、とても悲惨だなと思いました。

広島県での1日目は、私たちが知らない戦争の体験を、被爆者切明千枝子さんにお話を伺い、たくさんを知りました。動物も戦争に連れていかれ、まきこまれてしまったこと、水を求めていた人たちに水をあげることの出来ないまま目の前で人が次々と亡くなっていってしまったことが、切明さんの話の中で私の心に残った言葉でした。

2日目の、広島平和記念式典ですごく印象的だったのは、今年は5,293名の方が原爆死没者名簿に納められ、合計314,118名になったことです。戦争があることによって、現在の時点でも、多くのかたの命がうばわれ発見されてもらえていない人の気持ちは、とても悲しいと思うし、1日も早く発見してもらえることを強く望んでいるのではないか

と思います。また、2日目にはたくさんの建物を見て回りました。本川小学校平和資料館では、新校舎を建てる際に校庭を掘り起こしたらたくさんの人骨が出てきたということを知り、少し怖いと思いました。袋町小学校平和資料館では、人々が家族の安否や自分の存在などをかべや黒板に記して知らせようとしていたことが分かり、探し回っていた人たちのことを思うと、悲しいと感じます。

3日目、広島最後の日は、平和記念公園内を見て回りました。寄贈されたもののほとんどは身内や親戚のかたが形見としてもっていたものだったということが分かり、禎子さんの像には何年たった今でもたくさんの人々から折り鶴を送られていることが分かりました。

私はこの学んだことを生かし、知らない人々に伝えていこうと思いました。また、このようなつらく、悲しい戦争は二度と起こってはならないと強く実感しました。





## 広島での平和学習に参加して

深川 幸樹

僕は戦争について今までしっかり学んだり関心を持って調べたりしたことはありませんでした。日本がアメリカと戦争をしていたことがあるのは知っていたけど、過去のことのように思っていたし、実際にイメージがつかないことでした。

僕の母は沖縄県出身で小学校のころから戦争について学ぶ機会があったそうです。

僕は今まで戦争について学んだり、平和について考えることがなかったため、平和学習への参加を希望しました。

まずは地域の戦争について学びました。東村山市内にはB29が落ちたことがあったりして市内でも多くの人々が亡くなったことを知りました。遠く感じていた戦争が自分の住んでいる市でも起きていて被害が大きかったことを知り驚きました。

東大和市では旧日立航空機株式会社変電所を見学しました。7分間の攻撃にあい、現在まで保存されている様子は銃の痕がたくさん残っていて、攻撃の激しさを思い怖く感じました。西の原爆ドーム、東の変電所と呼ばれているだけあって戦争の悲惨さを残す貴重な建物だと思いました。

8月5日には新幹線で広島へ行きました。戦争体験者のかたから直接体験談を聞いて、多くの人だけでなく動物の命も犠牲となったことや、生き残った人でもつらく苦しい思いをしたことなどを聞き亡くなった人だけが犠牲者ではないのだと思いました。

次の日には広島平和記念式典へ参加しました。安倍首相も来ていて、とても大きく大切な式典なのだと思います。戦争によって亡くなった人は増えていてもう終わったことではなく、まだ苦しんでいる人はたくさんいることを知りました。僕は黙とつとき、何を考えていいかわからなかったけど、これからも平和な世界が続くようにと願いました。

その後は本川小学校平和資料館や袋町小学校平和資料館を見学しました。家族や大切な人を黒板に伝言を書いて探した人の気持ちを思うと悲しく辛い気持ちになりました。

今回の平和学習を通じてたくさんの展示品や資料、建物を見学しました。今まで見たこともないような物もたくさんありました。攻撃の強さが残るような傷がついた物や血のついたままの物など、どれも怖さを感じました。けれど僕は今回の平和学習で見たものや聞いたことはとても貴重でいい経験になったと思います。それはこの経験によって今まで知らなかった戦争のことを知ることで平和な世界をこれからも守っていきたいと思えるようになったからです。

僕は今回知ったことをほかの人に教えてどんどん戦争反対の意見を持った人を増やしていきたいです。



## 戦争への思い

松浦 光音

私は、8月5日～8月7日まで広島に勉強をしに行ったとき一番心に残った場所があります。

それは、広島平和記念資料館です。どうして一番心に残ったことかと言うと「原爆のこと」がより詳しく知れたと思ったからです。

資料館では当時広島でどうやって原爆が落ちたかを色々な方法で説明してありました。一つは、ケロイドや放射線での被害を受けた人の写真があったり、焼けこげた服や溶けた道具があったり、当時の街なみを映像で立体的に映しだされた、広島街が一瞬で何もかも焼けてしまったところを見ました。あとは、見るだけじゃなく、音でも聞いたりして、小学生の私でも原爆がどれだけつらいことだったか知れたからです。

それにもう一つ心に残った場所があります。それは、原爆の子の像です。

理由は、平和を守るためにつくられて、今もその像とそれ以外のことで平和が守られていますごいな～と思いました。

そして私は、まだ戦争のことをよく知らない家族や友だちに私が語り人となってみんなに伝えていきたいです。



## 広島の平和

宮本 武

ぼくが広島に行って思ったり、感じたことは、戦争の悲惨さです。

被爆者の切明さんから、戦争中の話を聞きました。

「兵隊は、毎日船で戦場へ向かっていました。『日本は神国だ。だから天皇は神だ。まともにみると目がつぶれるぞ。』といわれました。動物も連れていかれました。私は動物が好きだったのでショックでした。1匹も帰って来なかった。つれて帰るよゆうはなかったそうです。かわいそうでなりませんでした。」

「そして、原爆が落とされ、大火事がおきました。水を飲ませようとすると、医者が、『ダメだ！！のませるな！！』と、言っていました。結局、飲ませなくて死んだ人は何人もいたはずです。」

「平和は、待っていても来ない。自分で守るものだ。」

ぼくはこの話を聞きながら色々な気持ちになりました。例えば、「水をあげられない場面」では、そのときの様子が目に浮かびました。ただただ、悲惨だと思いました。水をあげられなくて殺してしまったことが恐ろしいと感じました。

地域の戦争で、機銃そう射でうたれて亡くなった人もたくさんいました。ほかの人が怖がっているとき、「だいじょうぶ、落ちついて。安心して」と、言えるのは偉いと感じました。ぼくも落ち着いて行動したいです。

そして、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業で1番変わったのが、平和に対する意識です。

正直言うと、参加する前は平和なんて別に…。なんて思っていました。しかし、こうして、被爆者切明さんのお話、平和記念式典への参加、原爆ドームの見学などして、意識は変わったはずです。ぼくには、ひいおじいちゃん(92)がいます。お話を聞いて、広島のことと一緒に自由研究にまとめました。

みんな、自由研究を見てくれています。その人たちの気持ちが変わっていたら、と思います。



## 原爆の事実

本橋 奈々

1945年8月6日。午前8時15分。一発の原子爆弾によって広島街は崩壊してしまいました。これは、日本、そして世界各国にとっても忘れることのできない恐ろしい記憶です。私はそれをつい最近まで軽く受け止めていました。

昨年、この地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業に参加して戦争や原爆はやはり、恐ろしいものなんだと「知識」としての学習をしました。参加した後、もっと興味を持った私は来年も参加して、もっとたくさんを知りたいと思うようになりました。そして今年の8月6日。再び私は広島で戦没者、戦病没者の方々に向けて黙禱をささげました。

私が今年参加してとても心に残ったことがあります。

それは、切明さんのお話です。今年の講話はどこか深みを感じました。昨年も聴いていたので大体のイメージはつかめていました。しかし、昨年のイメージに加え、さらに今年のイメージも、となると映像がはっきりと見えて体験していない私でも少し、ゾクゾクするような話でした。これを実際に体験されたかたがいると思うと本当に恐ろしいです。切明さんはお話をされている最中、ときどき目に涙を浮かべ、声を震えさせながら訴えかけるように話されていました。訴えるような目と力強い言葉に心を打たれ、私はときどき泣きそうになりながら切明さんの言葉を受け止めていました。そんな言葉の中でも、特に心を打たれた言葉があります。それは、「今の政治家はこわい。」ということです。切明さんは憲法9条のことを「戦没者の願いだ。どんなことがあっても守らなければいけない。」とおっしゃっていました。しかし、今の政治家は集団的自衛権を始めとする憲法9条に違反するようなものばかりを作り、平和を崩そうとしています。切明さんも9条のおかげで今までの73年間、日本は平和

だったのになんでなくそうとするのか、と訴えていました。今の政治家はこわい。この言葉は切明さんの心からの叫びのように聴こえました。切明さんは、この考えを改めてもらうために私たちが努力しなければいけない、とおっしゃっていました。私は切明さんの望みを叶えられるようになりたいと思います。

今年参加できて本当に良い経験になったと思います。私がこれから生きていく中で8月6日と8月9日は特別な日になりました。これからもずっと平和な世界が続くことを願い続けていき、そして私自身も努力していこうと思います。来年も参加できるのであれば、参加してさらに「知識」を深め、「事実」としての学習ができるようにしていきたいです。



## 平和の大切さ

森 心憂

私は、戦争のことを詳しく知りたかったので「地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業」に参加しました。初めは、とても緊張しましたが、みんながとてもやさしかったのですぐになれました。

最初に私の地域の戦争について調べました。私は、旧日立航空機株式会社変電所を見てとても怖くなりました。それは、弾があたったコンクリートの壁に穴が空いているのを見たからです。私は建物の中にも安心できなくて恐ろしいと思いました。

広島県に行く前に一番見たかったのは、原爆ドームです。本物を自分の目で見たかったからです。

広島県に行き、原爆被爆者である切明さんにお話を聞かせていただきました。切明さんは「73年間日本が平和だったのはみんなが平和を守ったから。」と、話されていました。このとき、私は平和を守ることはどうすればできるのかが分かりませんでした。次の日、式典に参加しました。式典には、多くの人に参加していました。私は、みんなで平和を守るというのは、みんなが平和を大事だと思いつけることだと感じました。

一番見たかった原爆ドームも見ました。想像以上に大きくてびっくりしました。また、昔の写真と見比べて骨組みまで見える建物になってしまいくらい怖く感じました。実際に見て、レンガやコンクリートの壁を壊してしまう原爆の威力を感じることができました。見たことがない人は、一度は見てほしいと思います。そして、広島平和記念公園内には、被爆樹木がありました。立っているのもつらそうととてもかわいそうだと思いました。それでも立っている植物がすごいと思いました。

そして、一番心に残ったのが原爆の子の像です。年が私と同じくらいで亡くなった子の同級生が、募金を集めて造った像です。私は子どもも平和のために前向きに行動していてすごいと思いました。もし私だったら、友達を亡くしてずっと泣いていて、

何もできないと思ったからです。

「平和のつどい」の発表では、多くのかたが聞きに来てくれました。リハーサルでは、うまく読めなくてグループの友達に心配をかけてしまいました。しかし、本番ではうまく読めたので良かったです。また、「火垂るの墓」は、とっても悲しいお話でした。そして食料に困らないで生活している今が幸せだと思いました。

戦争では、多くの被害があったことを知りました。その中で、戦後のりこえた人たちがすごいと思いました。また、私の地域でも大きな被害があって、驚きました。

私は、この事業を通して、3つのことを学びました。1つ目は戦争の恐しさ、2つ目は命の大切さ、3つ目は平和の大切さです。この3つを忘れないで、平和を守る一人になりたいと思いました。その一人になるために私ができることを考え、夏休みの自由研究のテーマにしました。そして、私が学んだことをクラスメイトにも発表しました。発表を聞いた人が関心を持ってくれたら嬉しいです。これからこの事業で学んだ平和の大切さについて考えたり、伝えたりしていきたいです。



# 7

## 参加者アンケート

### アンケートの目的

「平和」や「地域の戦争」、「広島」について、それぞれの考えがどのように変化するかを知るために、参加者 20 人に事業の実施前と実施後にアンケート調査を行いました。

### アンケートの結果

#### 実施前 本事業に参加を決定した理由は何か (単位：人)

平和学習をしたいから	12
広島に行きたいから	1
親に薦められたから	4
友人に誘われたから	1
その他	2*

\* 自由研究で戦争のことをまとめたいから  
戦争のおそろしさとかどうして戦争が起きたのか

#### 実施前 広島派遣事業で最も興味がある内容は (単位：人)

広島被爆者体験講和聴講	2
広島平和記念公園の式典	5
袋町小学校平和資料館	0
広島城	0
本川小学校平和資料館	0
原爆ドーム	6
とうろう流し	2
広島平和記念資料館	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	3
原爆の子の像	0
その他	0

#### 実施後 広島派遣事業で最も興味深かった内容は (単位：人)

広島被爆者体験講和聴講	9
広島平和記念公園の式典	5
袋町小学校平和資料館	0
広島城	0
本川小学校平和資料館	2
原爆ドーム	2
とうろう流し	0
広島平和記念資料館	2
国立広島原爆死没者追悼平和祈念館	0
原爆の子の像	0
その他	0

事業実施前では、原爆ドームの見学に興味があるとの回答が多かったが、実施後では広島被爆者体験講和の印象が強かったようです。また、本川小学校平和資料館のポイントも増えています。ここでは被爆二世のかたからお話を伺いました。体験談などを伺うことは、とても心に残るのだと思います。

#### 実施前 本事業で何を学び、何を得たいか (複数回答可) (単位：人)

戦争の悲惨さ	16
命の大切さ	17
平和を守ることの重要性	18
自分の目で見て感じることの重要性	10
同世代の参加者との意見交換による気づき	8
平和学習に参加して感じたことを作文にまとめる力	8
その他	1*

\* どうして戦争がおきたのか

#### 実施後 本事業で何を学び、何を得たか

平和な世界に変えるには、核兵器と戦争・争いをなくすことが必要だということ。また、自分が行動しなければ何も変わらないということ。

ぼくは、放射線の怖さを知りました。放射線はゆげのように見えず、においもないので、被爆の状況が分からないということ、中性子、ガンマ線はふ厚いコンクリート、なまりでないと防げないという、放射線の怖さを知りました。

平和の大切さをまなんだ。原爆の知識をえた。広島についての知識もえた。

戦争により、自分の周りでもたくさんのかたが亡くなっていたこと。原子爆弾が落ちたあと、生き残った人たちが平和へと、一生懸命に活動し、平和公園ができたこと。一日でも早く「平和」な世界ができることを、多くの人が願い、そのために活動していること。

自分には関係ないと思っていた戦争を身近に本当に起こったことだと感じた。今の自分の生活が当たり前ではなく平和なことだと思えるようになった。

## 実施前 自分たちが住んでいる身近な地域での戦争について、知っていることは何か

テレビや映画を見ただけで、自分の地域のことはまだ知りません。	南公園の旧日立航空機株式会社変電所は空襲にあったこと。	よく遊びに行く南公園には旧日立航空機株式会社変電所跡があります。その変電所跡は太平洋戦争の痕が残っています。この痕は戦争の怖さを教えてくれます。この痕は、小型戦闘機による機銃掃射と、B29爆撃機による爆弾が炸裂したときの痕です。
南公園にある旧日立航空機株式会社変電所	B29が東村山の秋津AOKIのうらのおじょうさんみたいなのがあるところに墜落したこと。	秋津町にB29が墜落したこと。
・空しゅう・B29（秋津に落ちたこと）	旧日立航空機株式会社変電所を見学したことがあるけども、コンクリートの建物に大砲かなんかの跡がたくさんあり、その建物を一目見るだけで戦争の恐ろしさが分かりました。	富士見町には、東京陸軍少年通信兵学校や傷痍軍人武療養所、陸軍補給廠などが存在した。米軍が所沢飛行場などを目標に空襲し、その侵入コース付近にあったため、東村山も被害にあったそうです。
・東京大空しゅう ・防空ごう・B29 ・旧日立航空機株式会社変電所	朝鮮戦争	東大和市の南公園にある変電所は、アメリカに3回も攻撃されたけれど、奇跡的に残ったこと。昔、東大和市には、とても大きな軍事工場があったが、空襲でほとんどが焼けてしまった。
東大和南公園の変電所がこうげきされたこと。	広島にくらべて被害は少ない。被害があった建物も残っている。	東大和南公園にある旧日立航空機株式会社変電所は、戦争の恐ろしさ・二度と戦争が起きないように残されている。
1945年3月10日におきた東京大空襲。変電所での空襲のときに111人の命が奪われた。	旧日立航空機株式会社変電所・子どもから大人までたくさんの方が働いていた時に、原爆が落とされたことです。	1942年4月の空襲。東京大空襲では約10万人の死者。B29というアメリカ軍の飛行機が攻撃をした。 東村山市は学童集団疎開地域になっていた。秋津町に、日本の攻撃を受けたアメリカ軍のB29がつい落した。 ・平和塔公園・旧日立航空機株式会社変電所 ・ふるさと歴史館・化成小学校

## 実施後 身近な地域での戦争について実際に学びどのように感じたか

東村山市のふるさと歴史館では、自分が住んでいるこの地域にも大きな被害があったことや当時の様子を詳しく知ることができて、改めて戦争の悲惨さがよくわかりました。東大和市の旧日立航空機株式会社変電所を見学して、再び戦争の悲惨さがよく伝わってきました。とくに、変電所の壁には爆撃の痕がたくさんあいていて、当時の東大和市が大きな被害を受けていたことを知り、とてもショックを受けました。	戦争中に、東大和市と東村山市でどのようなことが起きたのかを知ることができたため、良かったです。東村山市に、広島と長崎で爆撃した石のモニュメントがあることを知りませんでした。	東大和市、東村山市でも戦争が起こり、たくさんの方が被害があったことを知りました。
戦争とは恐ろしいもので、昔の日本人々々を苦しめ、また今なお苦しんでいる人がいて、あってはならないものだと思えました。	戦争は遠いものだと思っていたけど、自分の住んでいる地域にも戦争の歴史があり、実際に起こったことだと実感しました。	通信兵学校で『ア』は『アーケードトーヨー』で覚えるのがとても大変だと感じた。旧日立航空機株式会社変電所には穴がたくさんあったので、それほどひどかったことを感じた。
地域にも戦争のひがいがあったことをはじめて知り、すごくおどろいた。当時がどれだけ大変だったのかをきいて、すごく悲しくなった。	戦争のあとがたくさん残っている。建物を見学した時、東大和市の旧日立航空機株式会社変電所は知っていたけれど、東村山市のは知らなくて、どちらも大変だったということが分かりました。	～東村山市～ 東京陸軍少年通信兵学校があったこと。364名の方が亡くなっていたこと。B29が秋津に落ちた。 ～東大和市～ 旧日立航空機株式会社は3回の空襲をうけており、今は変電所と給水塔の一部が残っている。111名が亡くなりました。多くの方が戦争により、悲惨だと思いました。三回も空襲があり、復興が大変だったと思いました。
東大和市にある旧日立航空機株式会社変電所は前から知っていたが、東村山市にも戦争の物が残っていたことを知った。	東村山市や東大和市でもたくさんの方が被害があって、旧日立航空機株式会社変電所には、弾か、爆風で飛んできた石などで穴があいているのを見た。東村山市では、B-29が落ちて、広島・長崎以外も戦争地域であったと実感しました。旧日立航空機株式会社変電所の2階に行く貴重な体験をしました。	爆弾の処理に、1200人以上が関わったことが重大だと思う。何十年たった今でも、そういうことが起きているから。
戦争の知らないことをたくさん知れて、とてもいい経験になりました。	戦争の悲惨さ。怖さ。平和であることの幸せ。	自分の近くでも、こんなに戦争の被害が出ていたことを知った。
東村山市・東大和市にも爆弾が落とされていた。東大和市では、若い人達が国のために働いていたのに、たくさんの方が亡くなり、無残だと思いました。	私が住んでいる東村山市・東大和市にも戦争について関係があるんだと思った。特に東村山市について、10代の方がモース信号について勉強していて、とてもえらいなと思いました。	自分の近くでも、こんなに戦争の被害が出ていたことを知った。
自分の住んでいる地域に戦争があったことは知っていたが、多数の死者が出てしまうほど激しく行われたことは知らなかったため、とても驚いた。	地域にはあまり戦争の爪痕がないと思っていたけど、学習してから地域にもたくさん爪痕があったと知りました。	身近な東村山市・東大和市も軍事施設があったり、空襲被害を受けていたり、戦争と無縁ではないことに驚いた。

戦争の被害が思ったよりもとても大きかったことが強く分かりました。	広島に原爆が落とされた時のひさんなことを。	戦争をやってはいけないと、語り人となって伝えられる。
命の大切さを再確認することができました。戦争によって命を奪われてしまったたくさんの方々の願いや想いを次の世代や後世に伝えていけるような人になりたいです。	原爆によってたくさんの方々の命が奪われ、今でも苦しんでいる人がいること。このようなことがもう絶対にあってはいけないということ。今後私たちが平和のために、努力していかなければいけないということ。	平和の大切さ、原爆や戦争のこわさ。 ・平和の重大さ ・平和の尊さ ・戦争の悲惨さ
戦争の悲惨さや、恐ろしさを学んだ。いつもと違う価値観を得た。	ずっと核兵器が無い世界でいてほしいと思います。	原爆によって、308,725人の人がなくなったこと。被爆者の切明さんのお話や、原爆ドームや袋町小学校、本川小学校などの、ポロポロになった姿から、原爆の恐ろしさを学び、平和の大切さを知ることができました。
戦争はダメ！だけではだめ。「小学生にもやれることはあります。」と切明さんの言葉がひびきます。戦争はダメ！と思うだけではなにも起こりません。何をできるのかをつねに頭に入れ、平和を強く願い、行動しないとなりません。	核兵器や戦争の恐ろしさ、原爆によって出来た人々の心の傷を学んだ。未来で日本が戦争を起こさないようにしたいという、未来をつくっていく実感もわいた。	原爆によって、308,725人の人がなくなったこと。幸せとはごはんが食べられて元気に暮らせること。原爆の爆風はりっぱな広島城を崩すほど恐ろしいこと。被爆者の話を聞いて動物までも戦争の道具にされたこと。
戦争後には何も残らず、ただ悲しみが残るだけ。だから、戦争は絶対にやってはいけないことだと思います。	戦争はぜったいにしてはならないこと。戦争をおこしてはならないこと。	

## 実施前 平和とは何だと思うか

・けんかがない・のどか・楽しい ・好きなことができる・自由	戦争のない、みんなが争いをしないこと。 国で問題が起きないこと。	皆、平等。国々などで人々の争いごとがない。	偏見がなく、戦争がない世界。核兵器がない世界。 Jアラート、空襲警報サイレンがどこでもならない世界
・みんなが笑顔でいること・幸せ・戦争の世界・みんなが平等に笑える世界	みんなが楽しくすごせる。人の手により亡くなる人がいないこと。	争いのないことだと思う。	一人一人が相手の気持ちを考えて、分かり合える存在。誰かが困っていたら助け合うこと。一人一人が仲良くすること。
世界中の人々が何不自由なく、争いを止め、人々が様々な問題を協力して解決すること。	戦争の危険から逃げる必要がない。みんなが笑っている。領地や財よりも、命が何より重んじられる。		みんなが楽しく喜びにみちていること。争いがなく安全に暮らすこと。学校に行けたり、おいしいご飯を食べられること。家族や友達がいること。色々な食物が育つこと。
みんなが仲良くして、おだやかなこと。争いが少ないこと。	戦争や犯罪のないこと。めめごともなく、みんなと仲良くやっつけていくことが平和だと思います。		
誰もが他人を思いやって幸せに暮らせる世界。誰もが自由に楽しく暮らせる世界。	それぞれが対立しても暴力で解決しようとせず、きちんと話し合いをすること。へんけん、差別がないこと。みんながルールやきまりを守った上で自由に暮らせること。		けんかや争いが少ないこと。みんながやさしくなって、話し合いで解決する。みんなが協力する。食べ物を配りあう。
戦いがなく、みんなが仲良く暮らしていること。			
争いがなく、世界全員が核兵器を持たないこと。武力によらないこと。	すべての人に差別がなく、平等であること。争いや戦争がない。暴力がない。一人一人が人としての権利を持っている。不公平がない。穏やかな暮らし。いじめがない。		人々のあそびがなく、だれもが安心して暮らせることだと思う。みんなが笑顔でいられることも平和だからだと思う。

## 実施前 広島と聞いて思い浮かぶイメージは何か

原子爆弾が落ちたときにもあった物を残し、同じことは「ぜったいにおこしてはならない」と強く伝えているところ。大勢の人が亡くなったり、苦しんでしまったところ。広島焼き・宮島	・原爆ドーム・平和記念公園・もみじまんじゅう・いつくしま神社・広島東洋カープ・生がき・きのご雲・1945年8月6日午前8時15分・おこのみやき・佐々木さだ子さん・瀬戸内しまなみ街道・元安川・島病院	・お好み焼き・原爆ドーム・原爆投下
・原爆ドーム・広島東洋カープ・かき・毛利元就・厳島神社・もみじまんじゅう・お好み焼き・サンフレッチェ広島F.C・平和記念公園	戦争によりたくさんの人が亡くなった。特に広島では、原爆が投下され、それによって他の地域よりもいっしょに人が亡くなったということ。	・お好み焼き・平和記念公園・広島カープ・原爆ドーム 今、多雨であついで、体育館などでくらししている。
・原爆ドーム・原爆での被害	・原爆投下・原爆ドーム・広島城	・野球・お好み焼き・原爆投下
・原爆ドーム・平和記念公園・原爆・戦争・かき・お好み焼き	・原爆ドームがある町・原爆が落ちた町・厳島神社・宮島・かき	・原爆ドーム・戦争・広島カープ・お好み焼き
・第二次世界大戦・お好み焼き	・原爆ドーム・広島焼き・カープ	・原爆ドーム・千羽つる・広島城・広島平和記念資料館
	・原爆ドーム・かき・お好み焼き	・原爆ドーム・原爆の子の像・アメリカ軍の飛行機「B29」・広島カープ・お好み焼き・原爆投下の日「8月6日」
		・原爆・原爆ドーム・広島電鉄・瀬戸内海・宮島・鹿

## 実施後 実際に行った後の広島のイメージ

世界で初めて原子爆弾によって被害を受けた所で、31万人を超える死者が出たので、地獄そのものになった場所だと感じた。	想像以上に原爆の悲惨さを感じました。また、今でもたくさんの所に、原爆のあとが残されており、原爆のい力がどれだけ強いものなのかを知りました。	本などでは原爆ドームを見たことがあるが、実際に見て、本とはちがいの迫力があって、原爆の威力を感じた。戦争を感じない、きれいな街だった。
広島が、8月6日を大切に、あの日のひさんなことを忘れないでほしいと感じた。	原爆でたくさんの方が亡くなったと知り、本当に原爆は世界に存在してはいけないと感じました。	路面電車や原爆ドームの迫力を感じた。
とてもひどいめにあったけど、元の街並みに戻し、平和を守り続けてすごいなと思います。	広島は、原爆の恐ろしさを世界に向けて発信する、とても大事な役割を果たしていると感じました。	原子爆弾が落とされた被爆県。戦争のおそろしさを伝えているところ。
原爆の被害のひどさを知りました。本当に原爆は、危険で悲惨だと思いました。戦争は、いけないと思いました。	原爆ドームにも穴がたくさんあったので、原爆が近かったことだと感じた。	今まで、被爆者のかたの体験談などは、あまり調べていなかったけれど、原爆で起こった悲しく残酷な話をたくさん知ることが出来、とても嬉しかった。
命の大切さを再確認することができました。戦争によって命を奪われてしまったたくさんの人々の願いや広島を訪問する前は、「原爆の被害をうけたかわいそうな都市」ぐらいにしか思っていませんでした。ですが、広島でたくさん原爆の被害を学び、実際に被害者の方のお話をきくと、当時の広島が被害がかなり大きく、とても大変だったということがわかった。今は、「平和を訴える都市」になっていると思います。	広島は、東大和市も大きな被害があったけど、それよりも大きな被害を受けていて、戦争後の資料館などから実際の状況がすごくよく分かった。	調べていても分からなかった、現地を見たからこそ分かった原爆の恐ろしさが前以上に分かるようになった。
原爆ドームは熱風や暴風に耐え、よく残っていたなと感じました。実際に原爆ドームを見て、この場所に原爆が落とされたのだとあらためて痛感しました。	広島は思っていたよりきれいで「すごいな」と思った。式典には、広島に住む人だけではなく、外国人の方も来ていて、たくさんの人が一日でも早く、核兵器がなくなることを願っていてくれて、うれしいし、広島県の力が大切なんだと思った。	実施前、原爆が投下されたのは知っていたけど、そんなには知らなかった。野球（カープ）のことやおこのみやきことは知っていた。実施後、すごく悲しいことがあった。原爆はこんなにもひさんで、くるしいものでなかなかなかったです。
	思ったより被爆した物などが残っていてすごいと思った。	思ったより、被爆者が多い。



実施後 平和とは何だと思うか

平和とはみんなが自然に笑いあえること。平和とは、世界に1つも核兵器がなく、武力をほうきすること。戦争をしないこと。憲法9条と前文に違反しないこと。	みんなが幸せなこと。ごはんがおいしいこと。青空が続くこと。	世界中の人が仲良くなることはできないけど、争いがいいこと。	みんながけんかをせず、食料も多くあり、協力して争いをしないで、いっしょに仲良くなれるようなこと。
争いがなく、みんなが親切なこと	誰もが思いやりの心を持ち、幸せに暮らせること。		「みんながみんなを助け合うこと、と笑顔になれること、けんかをしないぐらいやさしい世界。」だと思う。
自分が自由にやりたいことをやれて、自分の意見を主張できる世の中であること。世界で戦争がないこと。	戦争や、もめごとのない世界		ケンカ、殺人がない世界。核兵器がない世界。
	核兵器が使われず、戦争が起きることのない世界。人類から、生物全てが不自由なく暮らせる世界。		平和とは、もうこのような悲惨で悲しい戦争などが無いこと。毎日が、楽しいと思えることだと私は思います。
平和は、みんなが自然に笑顔になる、戦いをしない、食べ物を1日3食以上食べられる。	人々が争うこともなく、幸せで、協力して、凶器や武力を捨てること。	核兵器がなく、戦争がなく、日常を普通に自由に過ごせる事。	戦争や核兵器がない世界。戦争で傷つく人がいない世界。
世界の国々が争いごとをしない。どこの国も核を持たず強くなろうとしない。世界中の人々が健康でやらせること。	みんなが笑顔でいられること。おいしいもの(たべれる)、たのしいことが(できる)、なにも不自由がない。たのしくすごせている。	未来に希望がもて、戦争が起きない世界になること。それでも、戦争が起きたことを忘れてはいけないと思いました。	友達と仲がいい、町のどか、みんなと遊べる。

実施前では「戦争がないこと」といったような漠然としたイメージでしたが、実施後は身の回りから具体的に平和を考えられるようになっていきます。事業参加によって、平和に対する考え方が深まったことが伺えます。

本事業に参加した感想

いつもテレビで見ていた平和式典に参加できて貴重な経験ができました。ずっと平和である事を願います。	広島に行くことは滅多にないし、今まで広島のことを話したくとも、通じないことが多かったけど、今回は好きに話せたのもあって、とても楽しく良い経験になった。現地に行って初めて分かったこともあり、とても楽しかった。	広島派遣に参加できて戦争のことだけでなく、当時の人々の暮らしや気持ちを知ることができました。これから広島へ行ったことのない人か、戦争の話を聞いたことがない人に、僕が話をしあげたいと思いました。
今みたいな生活は当たり前と思っていたけど、73年前はちがった。当たり前のことが当たり前にならない。そんな時の人々は憂うつでとても悲しいと思った。今の時代が、どんなに幸せなのかがとても本事業に参加して分かった。	戦争や平和について、詳しく知れたのでよかったです。ありがとうございました。	原爆の被害、自分たちの地域で昔何があったのか、知れてよかった。これからは、戦争の危険さ、原爆の被害を忘れずに、自分なりにできることを見つけていって、みんなに戦争の悲惨さ、原爆の被害を伝えたいと思います。
戦争のこと以外でも広島のことを知れて楽しかった。	戦争のない世界は、一人一人がつくろうとしないとつくれることなどが知れてよかったです。私という一人が戦争反対をしっかりと伝えていきたいです。	平和記念式典に参加したことや、切明さんのお話を聞いたことなど、戦争と平和について学ぶことができ、とても良い経験になりました。今度は僕が平和学習で学んだことを伝えたいです。
広島平和式典への参加など、めったにできないような経験ができて、とてもよかったです。また、戦争にふれることがあまりなかったけど、今回を通じて、平和の大切さがよくわかりました。	「広島派遣事業」に参加して、今まで知らなかった戦争でのばくだいな被害。そして、平和がどれほど大変だったか知った。	平和記念式典に参加したことや、切明さんのお話を聞いたことなど、戦争と平和について学ぶことができ、とても良い経験になりました。今度は僕が平和学習で学んだことを伝えたいです。
本当にすごく貴重な経験になった。平和とはなんだろうという疑問を解決できたし、今が幸せなことも分かった。この事業で学んだことをいかしていきたい。	原爆ドームではたくさんの穴が空いていたところ。また、原爆によってたくさんの所が欠けていたことに驚いた。被爆者の話を聞いて、動物までも戦争の道具にされて、しかも動物は一匹残らず帰って来なかったことにとても悲しくなった。	たくさんの知識が増え、体力的にも大変な日でしたが、それ以上に考えが深まりました。「戦争って何だろう?」と考えることが必要です。
昨年は、原爆がどれだけひどいものだったのかを「知識」として学びました。ですが、今年はその「知識」を「事実」として知ることができました。切明さんのお話のときは、特に「事実」として感じることができ、少し涙がでてしまいました。来年だけと言わず、毎年大人になって広島には行きたいと思えます。	前と同じように、やはり戦争を絶対やってはいけないと改めて思いました。	平和を学習するという貴重な体験や、被爆者講話など聴くことができてよかったです。
改めて戦争はしてはいけないと思いました。	広島でなかなか体験できないできないことができてよかった。	平和と戦争について考えることが多くなった。また、原爆などの核兵器が一度使われてしまうと、被害は長い間続いてしまう恐ろしさを友達に伝えていこうと思った。そして、これ以上原爆ドームの様な核兵器の惨情を伝える物は増えたくないと思うようになった。

## 東大和市平和都市宣言

恒久平和の実現と、核兵器の廃絶は、全人類共通の願望である。  
世界の世論のたかまり、各国の相互理解により、核兵器の廃絶にむけて曙光が見えてきたとはいえ、依然として地球上には多くの核兵器が貯えられている。

世界で唯一の核被爆国の国民として、また、国際社会の平和と協調を理念とする憲法をもつ国の国民として、人類の安全と幸福のために、地域紛争を含むすべての戦争の防止と、あらゆる核兵器の廃絶を心から願うものである。

ここに、平和を愛する全世界の人々と手を携えて、戦争と核兵器のない世界の建設にむけて努力することをあらためて誓い、東大和市が平和都市であることを宣言する。

平成2年10月1日

宣言

# 東村山市

## 核兵器廃絶平和都市宣言

地球上には、全ての生命と文明を一瞬にして滅亡させてなお余りある核兵器が存在し、人々はその脅威にさらされている。

世界唯一の核被爆体験を持つ国民として、いかなる地域においても、再び広島・長崎のあの惨禍を繰り返してはならない。我々市民は、核兵器がいかに悲惨なものであるかを、全世界に強く訴えるものである。

東村山市は、瞬時に自然を破壊し、人類の滅亡をもたらす核兵器の廃絶と、人類永遠の平和の願いをこめて、「核兵器廃絶平和都市」であることをここに宣言する。

昭和 62 年 9 月 25 日

東京都 東村山市



平成30年度  
東大和市・東村山市  
地域の戦争・平和学習及び広島派遣事業 報告書

---

平成30年12月 発行

編集・発行

東大和市・東村山市広島派遣事業実行委員会

・東大和市社会教育部 社会教育課

東京都東大和市中央 3-930

電話 042-563-2111 (内線 1554)

・東村山市市民部市民相談・交流課

東京都東村山市本町 1-2-3

電話 042-393-5111 (内線 2558)

